

資料 3

(補足資料)

浦添市 浦添前田駅・経塚駅周辺概要説明書

目次

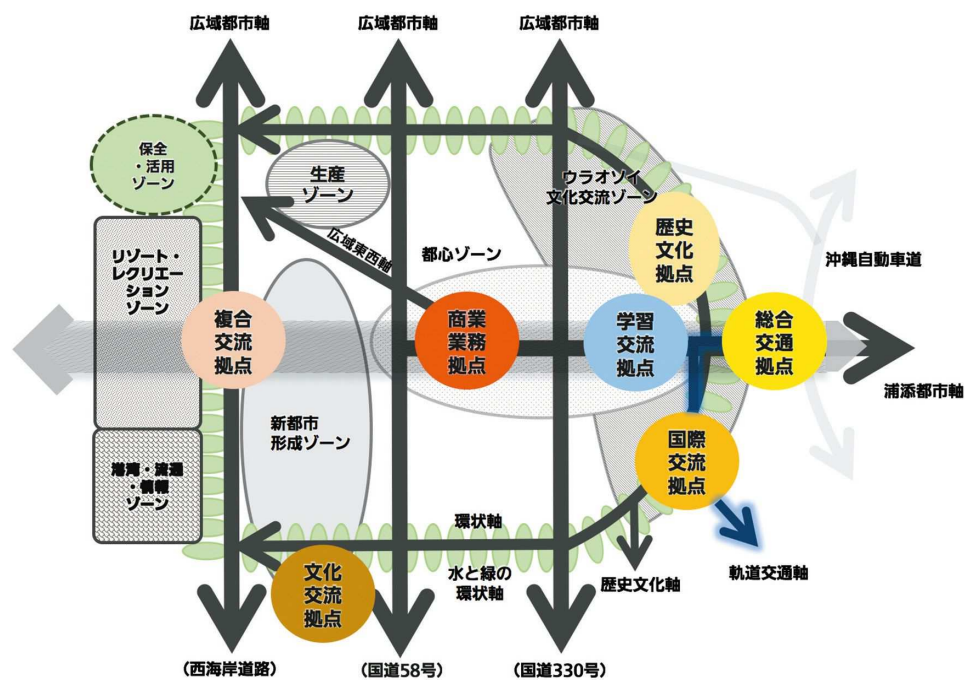
(1) 地域の現況・これまでの成果の把握・課題成果	1
【1】対象地区の設定	1
【2】上位計画、関連計画の整理	3
【3】対象地区の概況	10
【4】関係団体等ヒアリングに基づく地域課題	22
【5】対象地区周辺地域資源・プロジェクト等一覧	24
【6】経塚公園・前田公園及び周辺の概要	30
【7】コロナ禍における社会情勢の変化	34
(2) 地域の現況・これまでの成果の把握・課題成果	41

【1】対象地区の設定

ウラオソイ文化交流ゾーンは、浦添市のシンボルである浦添グスクを有し、浦添大公園や小湾川周辺の森や畑など多くの緑が残されています。[浦添の風土を活かし、自然とふれあえ、歴史文化と調和した、快適で美しいまちづくり](#)を進める地域です。

なお、統計等の整理については、ウラオソイ文化交流ゾーンとの重なりを考慮して、都市計画マスタープランの「中央南地域」を参考とします。

- ・土地利用の方針において、浦添前田駅・経塚駅周辺は「ウラオソイ文化交流ゾーン」に含まれ、歴史文化拠点、国際交流拠点が位置付けられている。



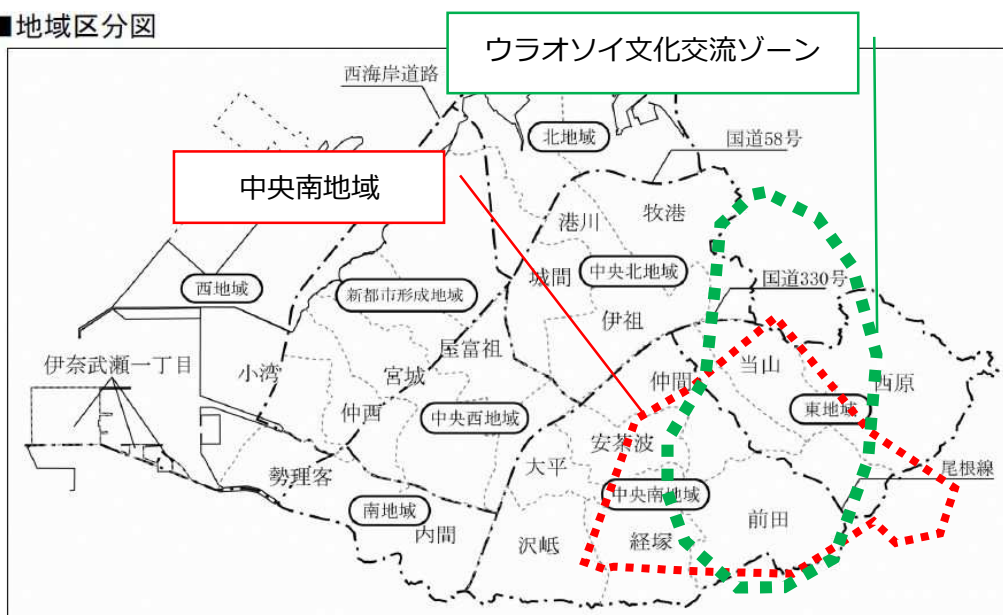
1

【都市計画マスタープラン(H25 年 1 月)】

- ・土地利用のゾーニング上は、浦添前田駅・経塚駅周辺は「ウラオソイ文化交流ゾーン」に含まれる。
- ・地域区分については、浦添前田駅・経塚駅周辺は「中央南地域」に区分される。
- ・「ウラオソイ文化交流ゾーン」は「中央南地域」を包含している。



■地域区分図



【２】上位計画、関連計画の整理

上位計画及び既往設計による対象地区及び公園、モノレール新駅の位置づけは以下の通りである。

表 対象地区の位置付け

上位関連計画名	対象区域の位置付け
第五次浦添市総合計画 前期基本計画（R3.3）	・世界遺産追加登録を目指す市民のシンボル浦添グスクの復元整備事業を推進するとともに、浦添城跡周辺の景観まちづくりを推進
浦添市都市計画 マスタープラン （H25.1）	【中央南地域まちづくり方針】 将来市街地目標[歴史が薫り、森と水辺に憩うまち] ・浦添市の行政・文化の中心として、また国際交流の核を形成する地域 ・今後予定される沖縄都市モノレール延長により交通機能の拡充が期待され、新たな機能立地を展開する地域 ＜対象地区周辺＞ ・開発団地における適正な更新を促進するとともに、良好な住環境の確保を図る ・道路美装化や沖縄国際センターとの連携強化により、にぎわいの創出や市街地の質の向上を図る
浦添市景観まちづくり 計画（H20.3）	【既存区画整理・開発団地地区】 方針１ 開発地区の暮らしに密着した新たな地域資源を育成・創造します（共有空間） 方針２ 開発地区のまとまりあるまちなみ景観を形成します（私有空間） 方針３ 開発地区内の安全でうるおいある通り景観を形成します（公有空間）
浦添市観光振興計画 （H30.3）	・観光・交流拠点の充実として、浦添大公園や浦添城跡周辺などの既存施設の効果的かつ柔軟な利活用の推進
浦添市産業振興 ビジョン（H30.3）	・スポーツ医療関連の産業振興・研究開発拠点化 （医療事業者の集積やリハビリを必要とする競技者等の増加）
浦添市緑の基本計画 ティーダヌファみどり 計画（R2.5）	【中央南地域のみどりのまちづくりの方針】 「ティーダヌファ」の森と水に抱かれた未来を見つめるみどりのまち ・風格ある「ティーダヌファ」の顔づくりと共生の都市生活文化を創造し、

	<p>未来へメッセージするみどりのまちづくりを推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「地域の交流拠点」としての経塚公園の整備推進 経塚公園は、地域と来訪者の交流拠点となるとともにまちを活性化させる公園として、パークマネジメントの視点で駅前広場との一体的な整備を推進する <p>【施策】</p> <p>◎ 浦添の風景をとどめるみどりをまもり育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ティーダヌファの顔となるみどりの整備充実 <p><u>浦添大公園・浦添運動公園・浦添カルチャーパークの整備推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 浦添大公園の丘陵は、市を象徴するグスクの森等として、浦添城跡の復元と併せて周辺環境整備を推進 ■ 浦添運動公園は、市民のレクリエーション及び市域の防災拠点として充実を図るため、引き続き公園内施設の整備を推進するとともに、公園部分の維持管理に努める ■ 浦添カルチャーパークは、市民のみどりのまちづくり活動を支援拡げる「市民交流の森・文化の森」として整備を推進 <p><u>浦添の顔である浦添城跡周辺区域の緑化推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 仲間地区及び県道浦添西原線沿線地区について、その風格ある歴史、文化環境の維持・向上をより一層推進するために、住民の意識向上と緑化推進事業に取り組む <p>◎ 花や実となるみどりの拠点をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に親しまれる公園づくり <p><u>公園や緑地の適正配置の推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 地域の人口規模や公園への誘致圏域等を勘案し、各地域で、公園緑地の配置バランスが適正に保てるよう整備 <p><u>地域特性に応じた特色ある公園づくり</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 市民の安らぎや安堵感など心の充足を与える公園づくりを目指し、花の名所や香りが楽しめる等の公園を整備推進 ■ 身近な生物や植物とふれあえ、環境学習の場としても活用できる、自然環境特性を生かした公園づくり ■ 地域の御嶽や拝所等の歴史・文化資源を一体的に取り込み、歴史や文化が薫る公園づくり ■ 市民意向を把握しながら、自己の責任のもと、自由な発想で楽しめる体験型の公園（プレーパーク等）づくりを推進 ■ 浦添市の特産品である桑商品の原料となる桑葉や桑実に、市民が気軽に触れ合えるような公園づくり <p>【重点施策】</p> <p>◎ みどりの管理運営・利活用方針</p>
--	--

	<p>・みどりのまちづくり支援センターの設置</p> <p><u>みどりのまちづくり支援センター</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 市民の生活に草木や樹木を取り入れ、より豊かな暮らしになるよう支援し、民有地の緑化を活性化するために、緑化に関心を持つ市民に対するみどりの総合窓口であり（市民協働）、市民同士の交流の場となる（民民連携）空間を整備することが必要 ■ 浦添市では、その空間施設を「みどりのまちづくり支援センター」と称し、整備の実現に向けて取り組む （支援センター活用例） ■ 美らまちサポーター制度 ■ 民有地緑化支援助成制度（仮） ■ 人生記念樹（仮） ■ みどりの講演会の開催 ■ 緑化市民同士の交流活性化 <p>◎浦添市営公園におけるパークマネージメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 従来の行政主導による維持管理中心の公園管理から利用者志向や規制緩和等、公園の利活用重視の発想により公園の経営資源を最大限に活用する新たな公園管理運営を行う。 ■ 街区公園等の小規模な公園は、周辺住民等と連携し市民協働による管理方法を検討する。 ■ 近隣公園等の一定規模以上ある公園は、Park-PFI 制度を活用し市民と事業者の参画による管理方法を検討する。
<p>日本遺産 （令和元年 5 月）</p>	<p>・琉球王国の礎を築いた歴史（那覇市・浦添市）を「日本遺産」として認定した。（対象地区周辺では、5つの日本遺産が認定）</p> <p>・浦添城跡 ・浦添ようどれ</p> <p>・浦添城の前の碑 ・玉城朝薫の墓（邊土名家の墓）</p> <p>・中頭方西海道（尚寧王の道）</p>

表 前田公園・経塚公園の位置付け

上位関連計画名	前田公園	経塚公園
第五次浦添市総合計画 前期基本計画（R3.3）	<p>○花と緑と水を配したまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間資金を活用した設置管理制度(Park-PFI)を 2ha 以上の公園の推進 ・ワークショップなどによる市民参画を基本に、ユニバーサルデザインの視点を含め、地域に応じた特色ある公園や自由な発想を大切にした魅力ある公園づくり ・ポケットパークや道路植栽、街角での花のある植栽等、それらの管理などを美らまちサポーター制度等を活用しながら市民協働による道づくりに取り組み <p>○市民協働によるまちづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路、公園や景観など、計画立案や事業実施等の各段階で市民参画を促し、市民協働によるまちづくりの推進 <p>○歴史と未来が織りなす美しいまちの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産追加登録を目指す市民のシンボル浦添グスクの復元整備事業を推進するとともに、浦添城跡周辺の景観まちづくりの推進 	
浦添市都市計画 マスタープラン（H25.1）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民にとって身近な憩いと安らぎの場、レクリエーションの場、災害時の避難場所 ・公園ワークショップなどを通して地域住民との十分な合意形成を図る 	
浦添市都市計画 マスタープラン（H25.1） 浦添市景観まちづくり計画（H20.3）	<ul style="list-style-type: none"> ・住区基幹公園（地区公園） ・未整備の公園の整備を促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・住区基幹公園（近隣公園） ・未整備の公園の整備を促進
第六次てだこ高齢者プラン （令和3年3月）	<p>高齢者の外出を促進する環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー化の促進 <p>■ 公共施設をはじめとする建築物や道路、公園等のバリアフ</p>	

	<p>リー化を推進し、高齢者をはじめすべての市民が安全かつ快適に利用できる環境整備・改善を行う</p> <p>■ 高齢者の安全に配慮し、歩道の幅員確保や段差解消、点字ブロックの設置等による良好な歩行者空間づくり</p> <p>計画から維持管理まで積極的な住民参加を促し、高齢者の視点も踏まえ、利用者に配慮した公園づくりを推進</p>
てだこ・結プラン -第四次浦添市地域福祉計画- (平成 26 年 3 月)	<p>・住みよい地域づくりを進めていくため、誰にでも利用しやすい道路、公園、公共施設等の整備を進めるなど、バリアフリー環境づくりを行っていくとともに、要援護者を支えるための体制整備を図る。</p>
てだこ・ゆいぐるプラン-第五次浦添市地域福祉計画・第六次浦添市地域福祉活動計画 (平成 31 年 3 月)	<p>「こどもの頃から育もう！思いやりでつながる地域のきずな」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域住民が共に考え、共に学ぶまちづくり（多くの住民が自ら地域を意識できるようまちになる） 2. 住む人みんなで創るまちづくり（地域住民が地域課題を解決できる仕組みが整ったまちになる） 3. 地域の誰もが住みやすいまちづくり（顔の見える関係ができ、地域や相談機関と連携が整うまちになる）
浦添市スポーツ推進計画 (平成 27 年 3 月)	<p>・「身近な所でスポーツが楽しめる環境の整備」の施策の一つとして、「公園施設の整備」が掲げられている。身近な公園において気軽に運動を楽しむことができるよう、公園の健康遊具や多目的広場の充実など環境整備に努めるとしている。</p>
第 4 次てだこ障がい者（児）プラン（第 4 次浦添市障害者計画・第 6 期浦添市障害福祉計画・第 2 期浦添市障害児福祉計画）（R3.3）	<p>人にやさしい福祉のまちづくりの推進</p> <p>・バリアフリー化、ユニバーサルデザインの推進</p> <p>■ 沖縄県福祉のまちづくり条例等への適切な対応</p> <p>■ 都市計画マスタープランに基づく「福祉のまちづくりに関する方針」の推進</p>
浦添市緑の基本計画 ティーダヌファみどり計画 (R2.5)	<p>・住民と来訪者との交流の場となるとともにまちを活性化させる公園として、パークマネジメントの視点での整備を推進</p>

表 浦添前田駅・経塚駅の位置付け

上位関連計画名	浦添前田駅	経塚駅
浦添市都市計画マスタープラン（H25.1）	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな玄関口として、歴史文化資源と調和した土地利用 ・賑わいの創出や観光客・地域住民との交流機能の充実 ・交流広場や観光案内版の整備など、浦添グスク等歴史文化的資源との連携機能の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺市街地の賑わいの創出や隣接する沖縄国際センターなどの利活用促進 ・土地区画整理区域において、道路美装化や沖縄国際センターとの連携強化により、にぎわいの創出や市街地の質の向上
浦添市観光振興計画（平成 30 年 3 月）	<ul style="list-style-type: none"> ・モノレール駅等の観光目線での機能充実 ・モノレール駅周辺の宿泊施設や観光・交流拠点の充実 	-
	<ul style="list-style-type: none"> ・浦添前田駅及び拠点施設を核とした賑わいづくり 	
浦添市産業振興ビジョン（平成 30 年 3 月）	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ医療関連の産業振興・研究開発拠点化（医療事業者の集積やリハビリを必要とする競技者等の増加） 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のコミュニティを活用した SB・CB の創出拠点（JICA 沖縄との連携により SB・CB のアジアを中心とした展開の拠点化も想定）
	<ul style="list-style-type: none"> ・観光系情報発信の拠点化を踏まえた、観光産業系事業者の誘致、観光系産業の拠点化 	

上位計画のまとめ

【市民の問題意識】 ※まちづくり生涯学習推進基本計画・地域福祉計画より

- ・まちづくりへの参加意欲やコミュニティ形成、地域活動の場の必要性に対する意識が高い
 - ⇒集会所や図書館などの必要性、近隣の人たちやコミュニティとのかかわりについて重要度が高い一方、満足度が低い
 - ⇒まちづくりや地域活動への意欲として「参加したい」・「機会や条件、内容によって参加したい」と答えた人が7～8割

【対象地区の位置づけ】 ※都市計画マスタープランより

- ・将来市街地目標「歴史が薫り、森と水辺に憩うまち」
- ・浦添市の行政・文化の中心として、また国際交流の核を形成する地域
- ・沖縄都市モノレール延長により交通機能の拡充が期待され、新たな機能立地を展開する地域
- ・浦添市と那覇市で「日本遺産」に認定され、歴史的な資源を活かす地域

【公園及び周辺整備に関する事項】 ※浦添市総合計画、てだこ高齢プラン・てだこ・結プラン、ティーダヌファみどり計画、浦添市観光振興計画より

- ・住民参加（ワークショップ等での参画、パートナーシップ構築）
- ・ユニバーサルデザイン（バリアフリー等）
- ・高齢者に配慮した公園づくりや高齢車の利用促進を考慮した公園管理運営
- ・花と緑のまちづくりの推進
- ・ティーダヌファの顔となるみどりの整備推進
 - ⇒浦添大公園等の整備推進、浦添城跡の緑化推進等
- ・地域に親しまれる公園づくり（公園、緑地の適正配置等）
- ・みどりの管理運営・利活用方針
 - ⇒みどりのまちづくり支援センターの設置
- ・浦添市営公園におけるパークマネジメント
 - ⇒近隣公園等は市民と事業者の参画による管理運営（Park-PFI）等を検討
- ・浦添市営公園や浦添城跡周辺などの既存施設の効果的かつ柔軟な利活用の推進

【モノレール新駅周辺整備に関する事項】

※都市計画マスタープラン・産業振興ビジョン、浦添市観光振興計画より

- ・賑わい創出や観光客・地域住民との交流機能の充実（交流広場や観光案内板整備）
- ・スポーツ医療関連の産業振興・研究開発拠点化
- ・駅周辺の宿泊施設や観光・交流拠点の充実

【3】対象地区の概況

地域概要について次項以降の通り整理した。なお、対象地区と統計データの対象等の関係は下図の通りである。

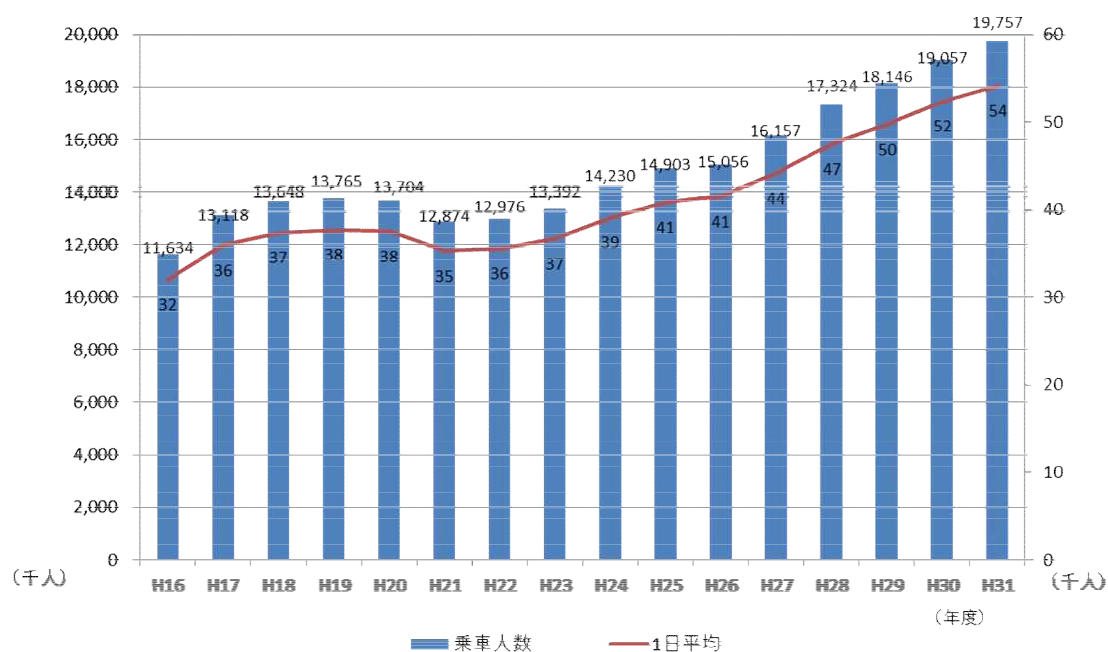
- ・対象地区と統計データの関係



① 駅乗降客数

・モノレール利用者の推移

- ・ゆいレール利用者数は平成 21 年度以降増加し、8 千人以上増加している。
(R1.10.1 延伸)
- ・1 日の平均も約 3.5 万人から約 5.4 万人に増加している。
- ・平成 21 年度の観光客による割合は 2 割であり、近年ではインバウンド等による更なる観光利用が想定される。



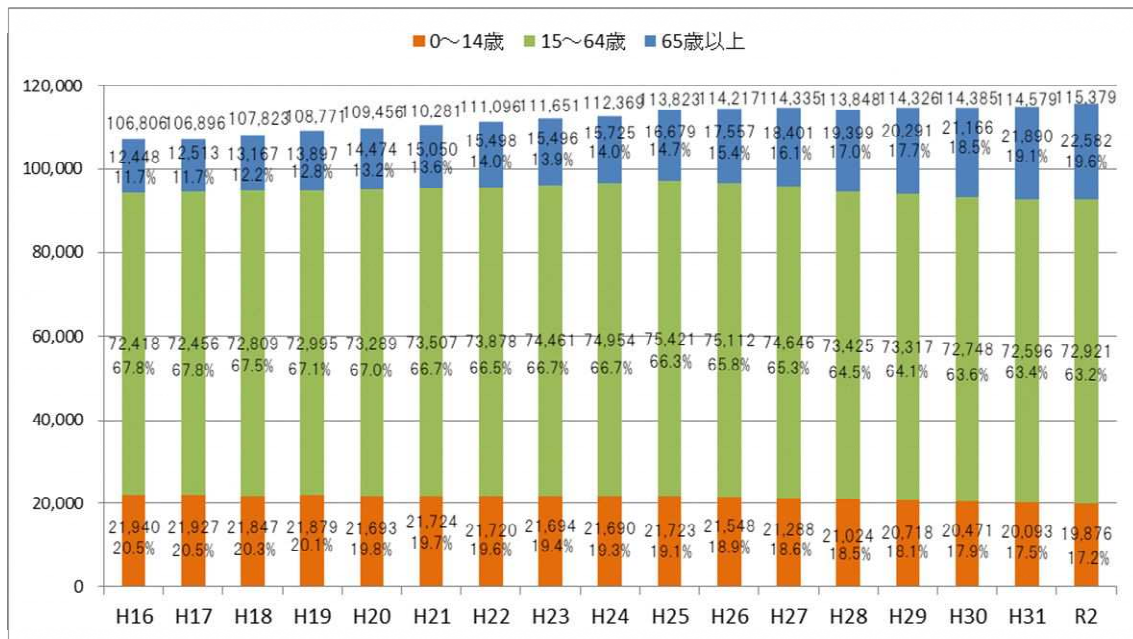
(出典：沖縄県 HP「乗客数の推移」より作成)

図 モノレール利用者数の推移

② 人口

・人口動態 浦添市全体の状況

- ・浦添市の人口は平成 16～26 年で約 7500 人増加（約 7 % 増）し、それ以降は概ね横ばいの傾向である。
- ・令和 2 年 1 月時点の高齢化率は 19.6%と県内でも低い方であるが、年少人口・生産年齢人口ともに年々減少しており、平成 30 年以降は老年人口が年少人口を上回っている。

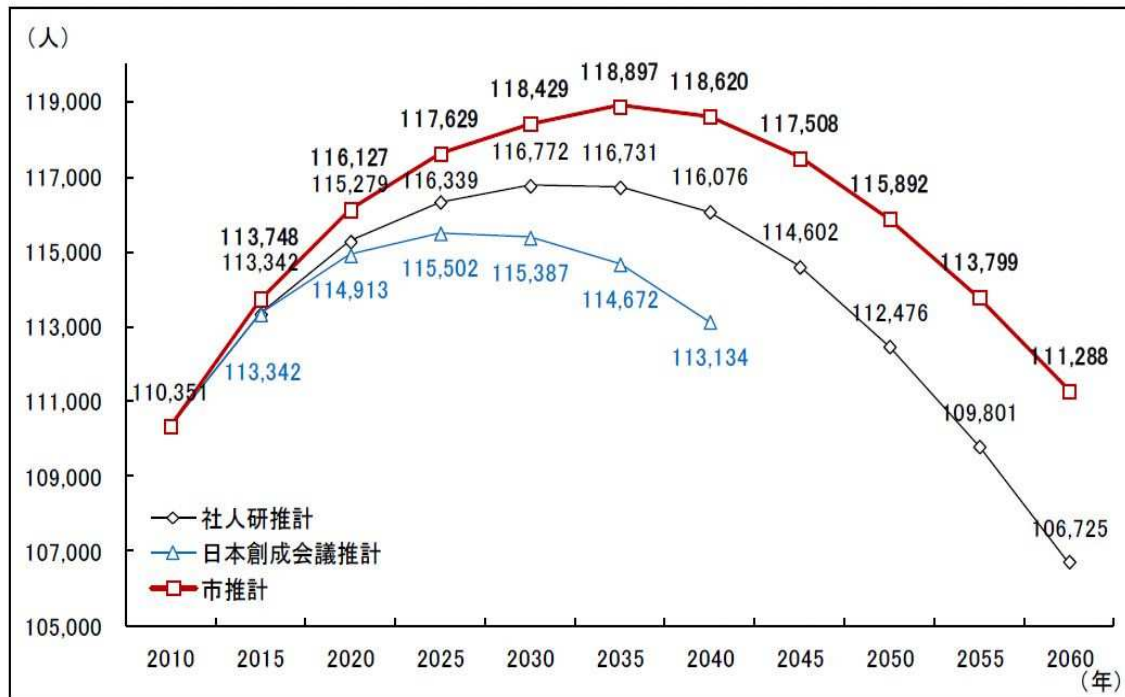


（出典：浦添市ＨＰ住民基本台帳データより作成）

図 浦添市人口動態

・人口推計及び年齢 3 階級別の人口見通し

- ・いずれの推計値も今後人口は増加し、2025～2035 年頃をピークに減少に転じる推計となっている。
- ・市推計では 2035 年頃まで増加し、その後減少に転じるものの 2060 年では 2010 年時と同程度と推計されている。

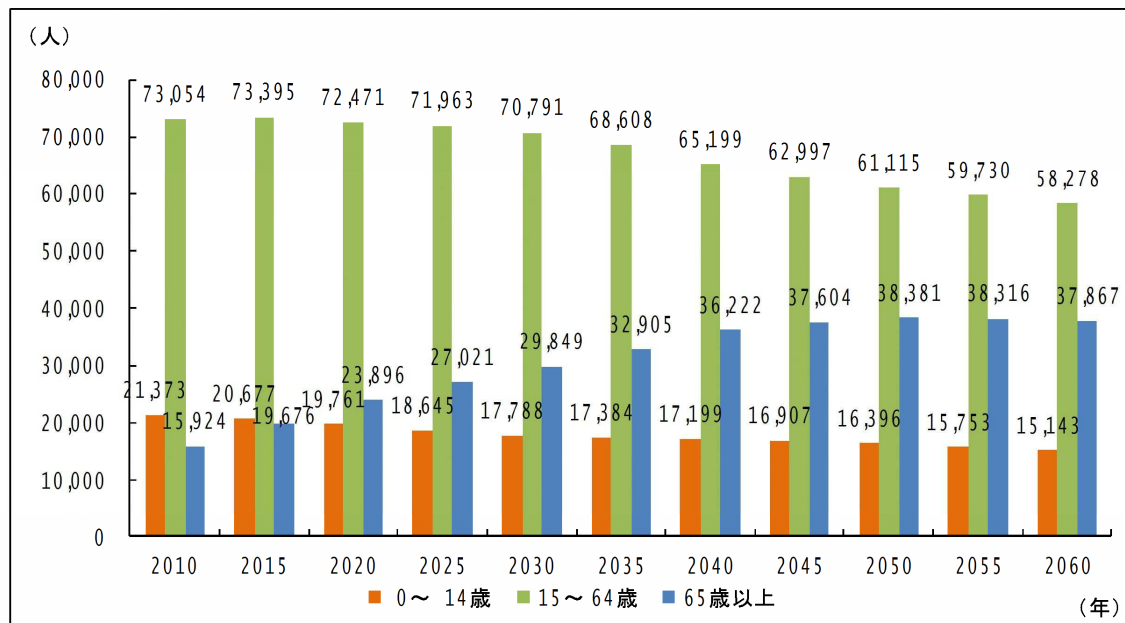


※ 2010(平成 22)年は国勢調査に基づく実績値(年齢不詳を含まない)

(出典：浦添市人口ビジョン (H28.2) より)

図 浦添市人口推計

- ・年少人口及び生産年齢人口は既にピークを迎え、今後、次第に減少する推計となっている。
- ・高齢化率は2020年には2割を、2040年には3割を超える見通しとなっている。



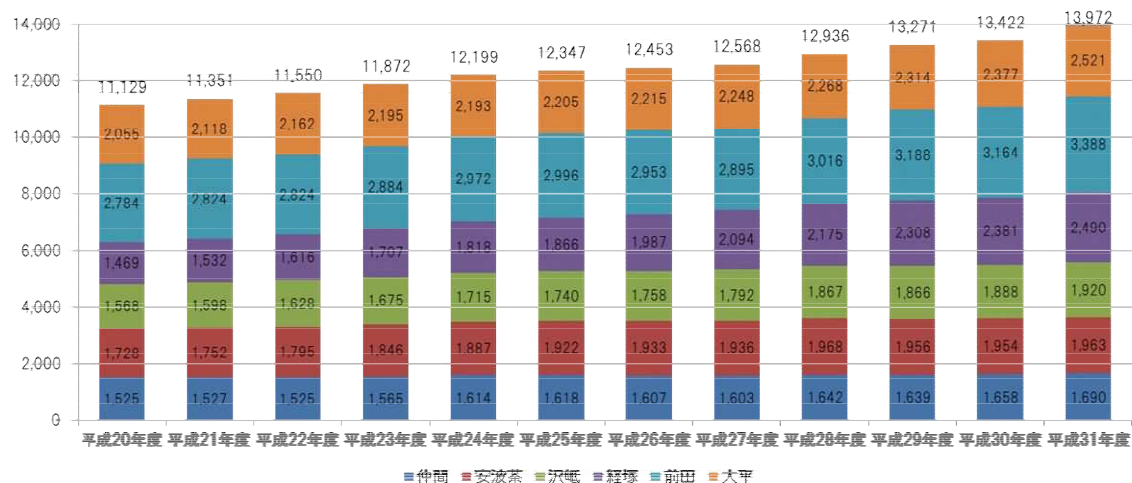
※ 2010(平成 22)年は国勢調査に基づく実績値(年齢不詳を含まない)

(出典：浦添市人口ビジョン (H28.2) より)

図 浦添市人口推計 (区分別)

・世帯数の推移（対象地区の状況）

- ・対象地区の世帯数は年々増加しており、概ね年間約 1 ～ 2 % の増加率で推移している。
- ・ 6 字とも平成 20 年度から平成 31 年度の間で数百世帯が増加しており、特に経塚地区では約 1,000 世帯増と顕著に増加している。

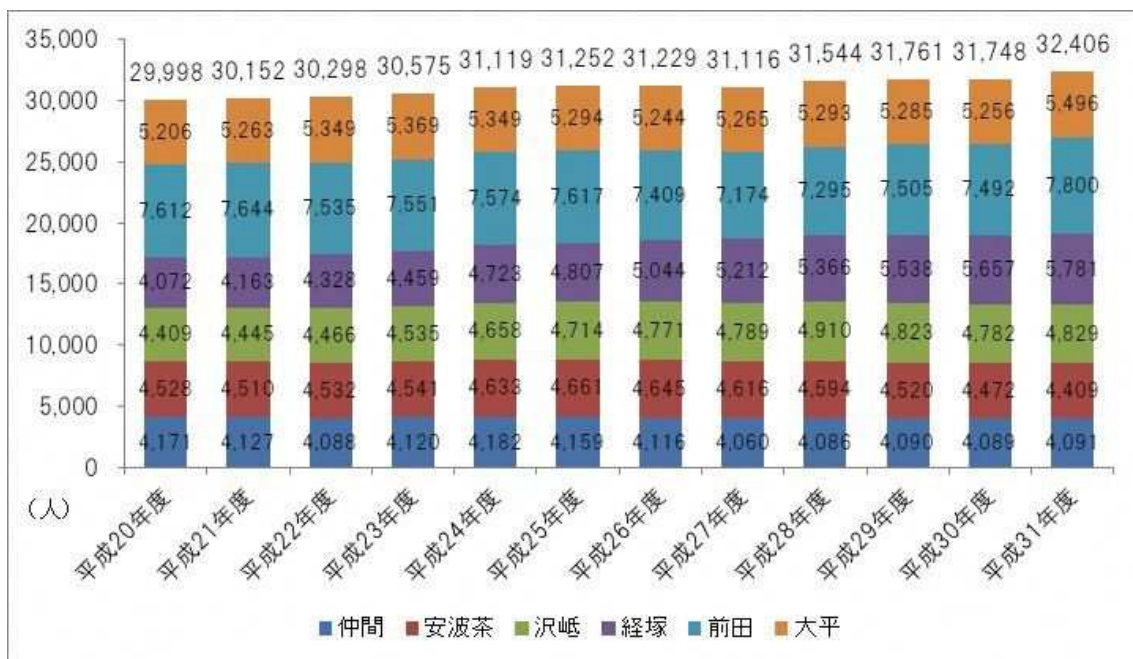


（出典：浦添市ＨＰ「統計うらそえ」データより作成）

図 対象地区の世帯数の推移

・人口の推移（対象地区の状況）

- ・平成 20 年度以降、対象地区の人口は概ね増加傾向である。
- ・平成 20～31 年度の間で約 2,400 人以上増加しており、市全体の増加数約 5,900 人の約 4 割を占める。
- ・6 字のうち、経塚、沢岬については、平成 20～31 年度の間で顕著に増加しており、それぞれ約 1,700 人、約 400 人増加している。
- ・また仲間、安波茶については平成 20～31 年度の間で 80～120 人程度減少している。
- ・前田については、平成 30 年度までは減少傾向にあったものの、平成 31 年度には約 180 人増加している。



（出典：浦添市ＨＰ「統計うらそえ」データより作成）

図 対象地区の人口の推移

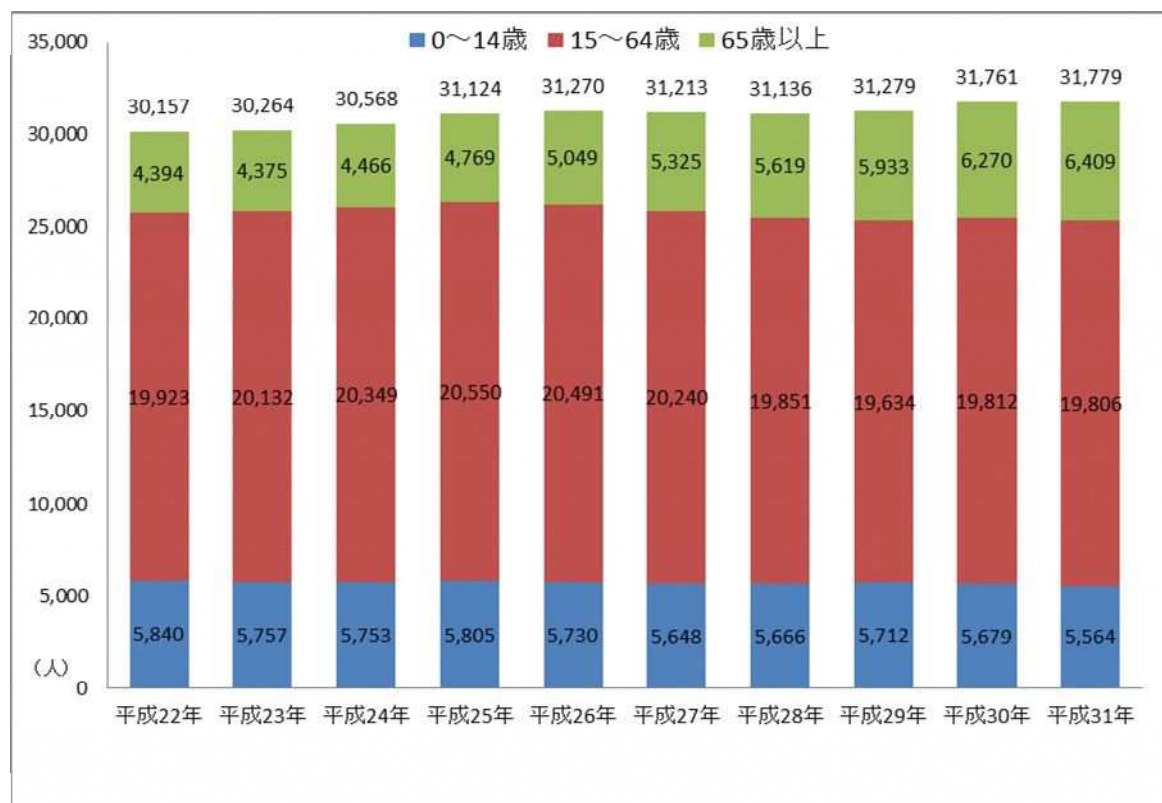
対象地区の世代別人口の状況は下記の通り。

年少人口：横ばい～減少傾向

生産年齢人口：平成 25 年をピークに減少傾向

老年人口：増加傾向

※世代別人口は住民基本台帳を基に作成しており、字別人口の数値と異なる。



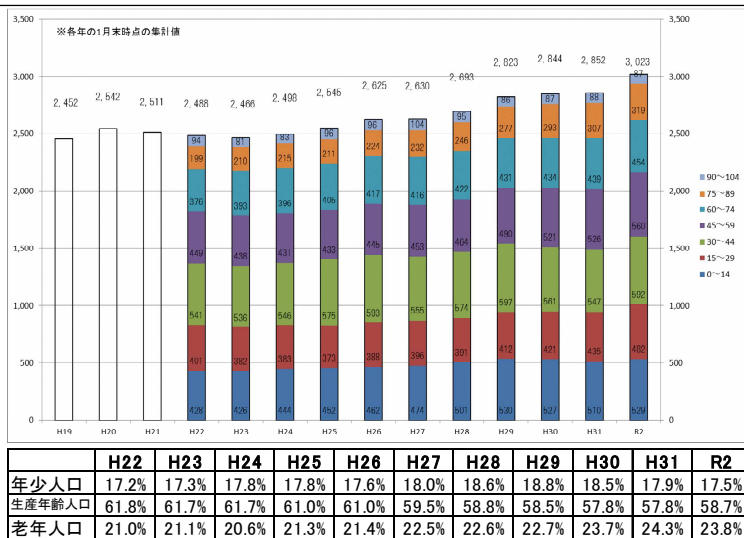
(出典：浦添市HP「住民基本台帳」データより作成)

図 対象地区の人口の推移（区分別）

・字前田・字経塚の人口

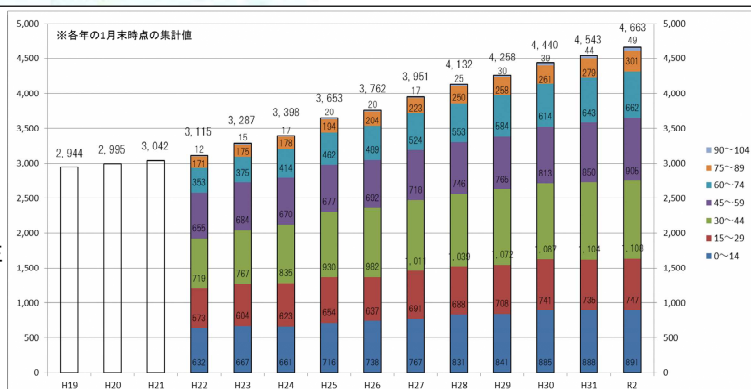
字前田

- ・字前田では平成 19 年以降概ね増加傾向にあり、特に令和 2 年は前年比約 6.0%増と増加率が高い。
- ・平成 22 年以降、世代別では年少人口・老年人口及びそれらが全体に占める割合も増加していたが、平成 30 年以降は年少人口の割合が減少。
- ・平成 22～令和 2 年で高齢化率は 2.8%増と、市全体 (5.6%) と比べて緩やかな増加。ただし、令和 2 年は 0.5%減少している。



字経塚

- ・字経塚では平成 19 年以降年々増加しており、特に平成 23 年以降は前年比 2～7%程度の割合で安定して増加。
- ・平成 22 年以降、世代別では年少人口・老年人口が増えており、全体に占める割合では老年人口のみ増えている。
- ・平成 22～令和 2 年で高齢化率は 3.9%増と、市全体 (5.6%) と比べて緩やかな増加。



	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2
年少人口	20.3%	20.3%	19.5%	19.6%	19.6%	19.4%	20.1%	19.8%	19.9%	19.5%	19.1%
生産年齢人口	67.3%	67.9%	68.6%	68.0%	67.4%	67.1%	65.8%	65.5%	64.7%	64.6%	64.5%
老年人口	12.5%	11.8%	12.0%	12.4%	13.0%	13.5%	14.1%	14.7%	15.3%	15.9%	16.4%

図 字前田・字経塚の人口(世代別)

地区概況まとめ

【人口】 ※統計うらそえ・住民基本台帳より

- ・対象地区の人口増加率は市内でも著しく高い

⇒平成 20～31 年度の間で約 2,400 人以上増加しており、市全体の増加数約 5,900 人の約 4 割を占める

- ・市全体の傾向とは異なり、対象地区内の経塚駅周辺（字前田、字経塚）では年少人口は横ばいで、高齢化率の増加も緩やか

【交通】 ※浦添市交通基本計画・地域公共交通会議資料より

- ・沖縄都市モノレール及び今後、運行となるデマンド交通により交通不憫地域(交通空白地域)の解消が図られる。
- ・浦添市公共交通会議にて、浦添市内全域でデマンド型コミュニティバスを運行することが決定し、令和 2 年 11 月 1 日に運行を開始した。

【土地利用・導入施設】 ※ヒアリング結果より

- ・地元からは自然や公園の有効活用と利便性向上を図る施設（駐車場、歩道橋、保育所・カフェ等）の整備が求められている
- ・経塚公園や前田公園では BBQ や農園等の市民利用、また、健康まちづくりの要望も挙げられている

③ 地元住民意向

・経塚公園の活用意向（ワークショップ・地元意見交換結果）

平成 25 年開催の経塚公園のワークショップにおける公園の活用意向は下表の通りである。

※ワークショップ概要…経塚公園の基本設計を遂行するにあたり、地域と一緒に考え、つくり育て、誰もが憩える公園づくりを目指し、ワークショップを開催（平成 25 年 10 月 25 日～12 月 5 日）。参加者は、ⅠグループからⅢグループ各 10 名程度。

分類	意見	
園路・広場	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベント広場を芝生に ・ 多目的広場は大きい四角がとれるように ・ <u>近隣自治会と合同利用できる規模の広場</u> ・ <u>災害時の避難場所として利用</u> ・ 多目的広場と遊具広場をつなげて ・ <u>景観的に特色のある公園を</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅前に遊具広場を ・ 丘を増やし、森を狭く ・ 起伏を活かしたこども広場 ・ テニスコート設置 ・ 8 ホール程度の G ゴルフ場
具体的施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 池がほしい ・ こどもが遊べる噴水広場がほしい ・ ウォーキングコース ・ サイクリングコース 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドッグラン ・ 散策コース ・ 園路の一周建設 ・ 森の中にアスレチック
修景施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保全する樹木の選別、エリア別など ・ <u>沖縄の樹木（フクギ、ホウオウボク等）</u> ・ 自然植生を理科教育や環境学習に ・ 見通しの良い公園として芝植栽を主に ・ <u>園路はクワーディーサーの樹木を</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 丘はいらない ・ 桜通路がほしい ・ 周辺は樹木で ・ 地形をいかす ・ 祭ができるように
休養施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ ベンチを多めに配置 ・ 休憩舎を多く配置 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東屋やベンチを多めに設置 ・ <u>トラバーチンの石いす</u>
便益施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場規模を大きく 	<ul style="list-style-type: none"> ・ トイレ 2 か所、男女離す
運動施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学生用にバスケ場、テニス場など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ施設の設置
遊戯施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼・小・中が遊べる場所 ・ ローラースライダー 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山の頂上へつり橋つける
管理施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 街路灯を多く 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハブ対策
駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ・ モノレールと連動して有料（50 台程度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 規模を大きく
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>景観が素晴らしい公園</u>にし、駅名は「経塚公園駅」に 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 待ち合わせオブジェ ・ 平坦な遊歩道と手すり

	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫してグリーンハイツ内の車両を規制 ・売店 ・自転車でグリーンハイツから公園を通り、 ・全天候型の園路 駅へ
--	--

上記の他、近隣自治会（前田、経塚、浦添グリーンハイツ自治会）から出た要望は以下の通り（平成 29 年 1 月 11 日）。

- ・スケートボード専用の施設設置

【4】関係団体等ヒアリングに基づく地域課題

分類	課 題	対応策（＊短期、中長期で考える）
歴史・文化	・冬至（トウンジー）に早朝太鼓での古式行事を行ったところ苦情が出て中止となった。 歴史文化資源の重要性 について上手く伝えきれていない。	⇒歴史文化の継承と地域の理解と共有 ⇒ コミュニティ形成
	・歴史文化資源は豊富だが 受入体制、インフラ が整っていない、 トイレが不足 。トイレは大切であり、 有料トイレの整備 も考えられる。	⇒インフラ整備や 民間（店舗）との連携
	・NPO 歴史ガイドの 高齢化 が課題。	⇒歴史文化の継承 ⇒ コミュニティ形成
	・歴史遺産相互の連携、酒造組合との 民間連携 が有効。	⇒ 民間との連携
	・玉城朝薫の墓所のガイドのための ルート開拓 が必要、琉球古典音楽家である、屋嘉比朝寄のゆかりの地（前田）の情報発信。	⇒地域全体の マネジメント
	・エイサー練習の 音への苦情 。	⇒歴史文化の継承と新住民を含む地域の伝統文化の理解 ⇒ コミュニティ形成
	・JICAのほか琉大、文化機関を集積した 国際交流拠点として、土地利用を図るエリア だが必ずしもそうはなっていない。	⇒国際性と歴史文化を活かしたまちづくり
	・観光協会と歴史NPOの連携はない。	⇒地域の連携が必要 ⇒ コミュニティ形成
にぎわい・交流	・地域における道路での綱引きも行われていない。	⇒歴史文化の継承が必要 ⇒ 地域資源の活用
	・経塚駅周辺の賑わい、魅力向上、チャージングなものにする必要あり。	⇒地域全体で相乗効果を上げる仕組み⇒ マネジメント
	・イベント開催時の 駐車場の整備 がされると良い。グスクへの修学旅行対応の 駐車場が不足 。学校の 駐車場が不足 。迷惑駐車や苦情、クレーム。	⇒てだご浦西駅 P&R 駐車場、ゆいレールとの連携。民間駐車場活用案内。 マネジメント
	・各拠点間の 歩行者動線 が未整備。	⇒地域と一緒に検討する仕組み ⇒ マネジメント
	・公園に行けば何かあるという期待感が定着していない。高度な 公園の活用方策 が必要。	⇒公園に訪れる、魅力ある仕掛けづくり ⇒ パークマネジメント
自然景観	・特徴ある花が咲く植栽は、喜ばれる。	⇒公園に訪れる、魅力ある仕掛けづくり ⇒ グリーンマネジメント
	・小湾川の活用、グスクに来訪する際に、カーの水の活用により清めることができる。	⇒歴史文化の継承と コミュニティ形成
	・桜の森、桜イベント、コスモスまつり（グリーンハイツ自治会）との連携。	⇒地域全体の マネジメント ⇒ グリーンマネジメント
	・施設整備が重要なのではなく、 施設運営が重要 である。	⇒地域全体での マネジメント
観光・産業振興	・学校の昆虫探しなど 自然 が残っていると良い。遠足の行き先として、経塚公園、前田公園が使えたと助かる。	⇒公園に訪れる、魅力ある仕掛けづくり ⇒ パークマネジメント
	・沖縄国際センターのハラル食の OIC 食堂、国際性豊かな図書館など県民に知られていない ソフトの特徴を活かした連携 が必要。	⇒地域資源を活かした、“浦添ならではの”まちづくり
	・ホテルがない、滞在時間の拡大、観るだけでなく 自ら体験できる観光のしくみ が必要である。	⇒地域資源を活かした、“浦添ならではの”まちづくり
	・公園での収益事業について事業者の関与不足、運動公園への民間（コンビニ）誘致が厳しい。	⇒ 民間連携、民間誘導 の取組
	・ 桑関連 の取り組みが弱い。	⇒地域資源を活かした、“浦添ならではの”まちづくり
	・公園での自主事業の展開が、 収益事業の経験不足（経営基盤の強化） 。	⇒民間連携、民間誘導の取組
	・浦添前田駅、経塚駅の各々での 特徴を引き出す ことが必要。	⇒地域資源を活かした、“浦添ならではの”まちづくり
	・“りっかりっかプロジェクト”、自治会によるウォーキングガイドとの連携、 公園の魅力向上 が課題。	⇒地域全体での マネジメント
	・母親の“おしゃれ”へのニーズ対応で、保育所のそばの“ カフェ ”や“ 複合施設 ”が必要。	⇒ 民間連携、民間誘導 の取組
	・路線バスの利便性の向上が課題。	⇒ 交通利便性の確保

分類	課 題	対応策（＊短期、中長期で考える）
健康	・スムーズに施設にアクセスできるよう、fly-on-over での 立体歩廊の遊歩道・スロープ が必要。	⇒地域の歩行者ネットワーク
	・コミュニティバスによる 地域の回遊性の確保 が必要。	⇒交通利便性の確保
	・ 地域住民が活用できるシェアサイクル の導入が考えられる。モバイルの活用や収益確保と高低差、コミュニティバスとの連携等が課題。	⇒交通利便性の確保
	・浦添南第 2 地区が動いていない。国道 330 号へのアクセスはこれから。	⇒地域の歩行者ネットワーク
	・2 次交通手段の確保、アクセスが必要。	⇒地域の歩行者ネットワーク
	・ ストレス社会 への対応が必要。	⇒ウェルネス
	・スポーツの視点での 公園の利活用 ⇒ 中国太極拳、ラジオ体操など	⇒ウェルネス
	・前田地区は古い自治会で 高齢化が進展 。高齢者の利用できる運動器具、ウォーキングコースを配した 健康まちづくり が必要。	⇒ウェルネス
	・浦添の家は庭が少なく、土いじりの需要は多い。高齢者による公園内農園での直売、高齢者と子供、外国人との 多世代交流、異文化交流 が可能。	⇒ウェルネス
	・フィールドアスレチックは喜ばれる一方で、木製で朽ちるので維持管理が心配。	⇒公園に訪れる、魅力ある仕掛けづくり。同時に持続可能なマネジメント。
高齢者	・バスケットの練習の 音への苦情 。	⇒公園（まちづくり）ルール。
	・子供から高齢者まで幅広い交流が必要	⇒コミュニティ形成の場。
	・H31 保育園無償化による、 保育園の逼迫 （H36 は落ち着いている予測）	⇒子育て支援の施策展開との連携。例：公園、空き店舗の利活用等。⇒ マネジメント
	・郷土愛育てや、計画作成にあたり、 将来の子供たちの意見を反映 することも必要。	⇒歴史文化の継承とコミュニティ形成。
安全安心	・ 防犯カメラ の設置が必要。⇒ 事故対応や犯罪の予防、クレームへの対応。	⇒地域のセキュリティマネジメント。
	・サンエー経塚シティ周辺は明るいが、経塚駅周辺は夜暗い。	⇒地域のセキュリティマネジメント。
	・ 外国人客の一時避難 に JICA が指定。⇒ 災害対応時の役割分担の確認が必要？	⇒地域のセキュリティマネジメント。
	・学校の 生徒の安全と安心 の確保。経塚公園は、駅前であり、特に生徒が利用することが想定。	⇒地域のセキュリティマネジメント。
地域コミュニティ	・地域と公園をつなげることが必要、 自治会はその役割を担う ⇒ 自治会と JICA、浦商生等交流など。	⇒歴史文化の継承とコミュニティ形成。
	・ペット関連のクレーム（公園）。	⇒公園（まちづくり）ルール。啓蒙。
	・新住民も巻き込んで地域のイベントに取り組む必要。 “まちゼミ” との連携も必要。	⇒歴史文化の継承とコミュニティ形成。
	・暑い沖縄で公園に人は来ない。BBQ 施設があると 公園の魅力度 up し、来園者が見込める。一方で B B Q は飲酒を伴うので合わない。camp は可。	⇒公園に訪れる、魅力ある仕掛けづくり。
	・地域の方々と巣箱を配して、鳥を楽しむ。一方で鳥害が不安。	⇒公園に訪れる、魅力ある仕掛けづくり。 コミュニティの醸成 。
利便性	・サンエー経塚シティと経塚駅の 歩行者動線の確保 する必要がある。	⇒地域の歩行者ネットワーク。
	・サンエー経塚シティが 地域の賑わいの核 ⇒ 地域の魅力ある施設や店舗等との連携が課題	⇒地域に必要な民間（店舗等）の誘導、 空き店舗（空き家）の活用 。⇒ マネジメント
	・モノレールは、車輦内の WiFi を順次整備 ⇒ エリアでの Wifi 環境の確認。	⇒地域全体の マネジメント組織 。
	・JICA とのまちづくりの連携方策 ⇒ 物理的に。有機的に。	⇒地域資源を活かした、“浦添ならではの”まちづくり。
教育	・大学とまちづくりの連携・相乗効果 ⇒ まちづくり、コミュニティ形成、ウェルネス、デザインコード、歴史文化、芸能、地域貢献など。	⇒ 大学との連携 によるまちづくり。
	・公園を宿泊体験の拠点とする。学校行事の宿泊体験の誘致や学校行事の閑散期は観光客への宿泊施設として利用。	⇒公園を 教育の場 として活用。⇒ 防災学習、セキュリティマネジメント

【5】対象地区周辺地域資源・プロジェクト等一覧

区分	名称	概要
歴史・文化	国指定史跡浦添城跡復元整備	平成8年度より浦添城跡の復元整備事業を行っている。浦添城跡を四期にわけて平成42年度完成を目標に実施。
	浦添大公園整備	県営公園。史跡の保存を図りながら、県民のレクリエーション及び憩いの場として整備する。 県、S47～、面積：37.4ha
	浦添墓地霊園	浦添市にある霊園・墓地。
	世界遺産追加登録	浦添城世界遺産追加登録を目指し、様々な取り組みを行っている。
	ようどれ館・南エントランス	古写真や発掘調査のパネル、出土遺物などから、浦添グスクと浦添ようどれの歴史がわかりやすく学べる。
	前田の棒	棒を使った勇壮活発な集団演技で、古くから沖縄各地で行われてきた民俗芸能。
	ハクソーリッジ	日本とアメリカとの戦争映画。 クライマックスの舞台が「前田高地」である。
	井の大人川	「井の中でも尊い井」という意味で「井の大人川（井のウシガー）・地域の人々の呼び方ではイノーシガー」と呼ばれる。
	ワカリジ	浦添城跡の東端に高く突出した石灰岩で、今なお人々の信仰を集める拝所（御嶽）。
	経塚の碑	「金剛嶺」の三文字が刻まれた石碑。
	仲間樋川	浦添市内でもっとも大きな井泉の一つ。
	赤皿ガー	琉球王朝時代に造られた安波茶橋のすぐそばの岩の下から、今も静かにわき続けている湧水。
	メーヌハルガー	浦添市前田にある井戸。
	東前田原古墓群	浦添市の字前田から経塚の丘陵一帯に所在する墓群。
	玉城朝薫の墓	浦添市前田にある組踊の祖・玉城親方朝薫の墓。
	前田の高御墓	前田集落拝所の森の中にある墓。
	夫婦河	湧水。
	龍巻井ガー（ルーマシガー）	経塚にある井戸。日照りの時、龍が天に立ち上るのを観て掘ったところ、水がこんこんと湧き出たところから名前がついたと言われている。
	文格毛跡	経塚の碑から南方130m離れたバス亭の近くにある。以前は土山であったが、半分以上が削り取られ、昔の面影はない。
	フェーヌヒラ（南の坂）	「尚寧王の道」の難所。現在も急坂となっている。約400年前に尚寧王によって整備された浦添と首里を結ぶ琉球王国時代の街道である。
	ニシヌヒラ（北の坂）	「尚寧王の道」の難所。現在は石段となっている。約400年前に尚寧王によって整備された浦添と首里を結ぶ琉球王国時代の街道をあるくルートのひとつ。
	七番毛	王様が道すがら休憩した広場。
	浦添御殿の墓	市内でも最大級の墓。第二尚氏尚穆（しょうぼく）の次男 浦添王子朝央を祖とする政治家や文化人を多数出した浦添家の墓。
	安波茶馬場跡	浦添でよく知られていた馬場の中でも代表格の馬場で、いつ頃から開かれ、その規模などについては不明。現在の市役所庁舎の南側にあたるが、駐車場などに使用されている。
	安波茶橋	16世紀に建造された、浦添グスクから首里まで続く琉球王朝の歴史を感じる古道。
	当山の石畳	浦添市前田から北へと続く当山の石畳道は、琉球王国時代、国王はこの道を通って首里城から普天間宮へと参詣したといわれている。『ちゅらさん』のロケ地。

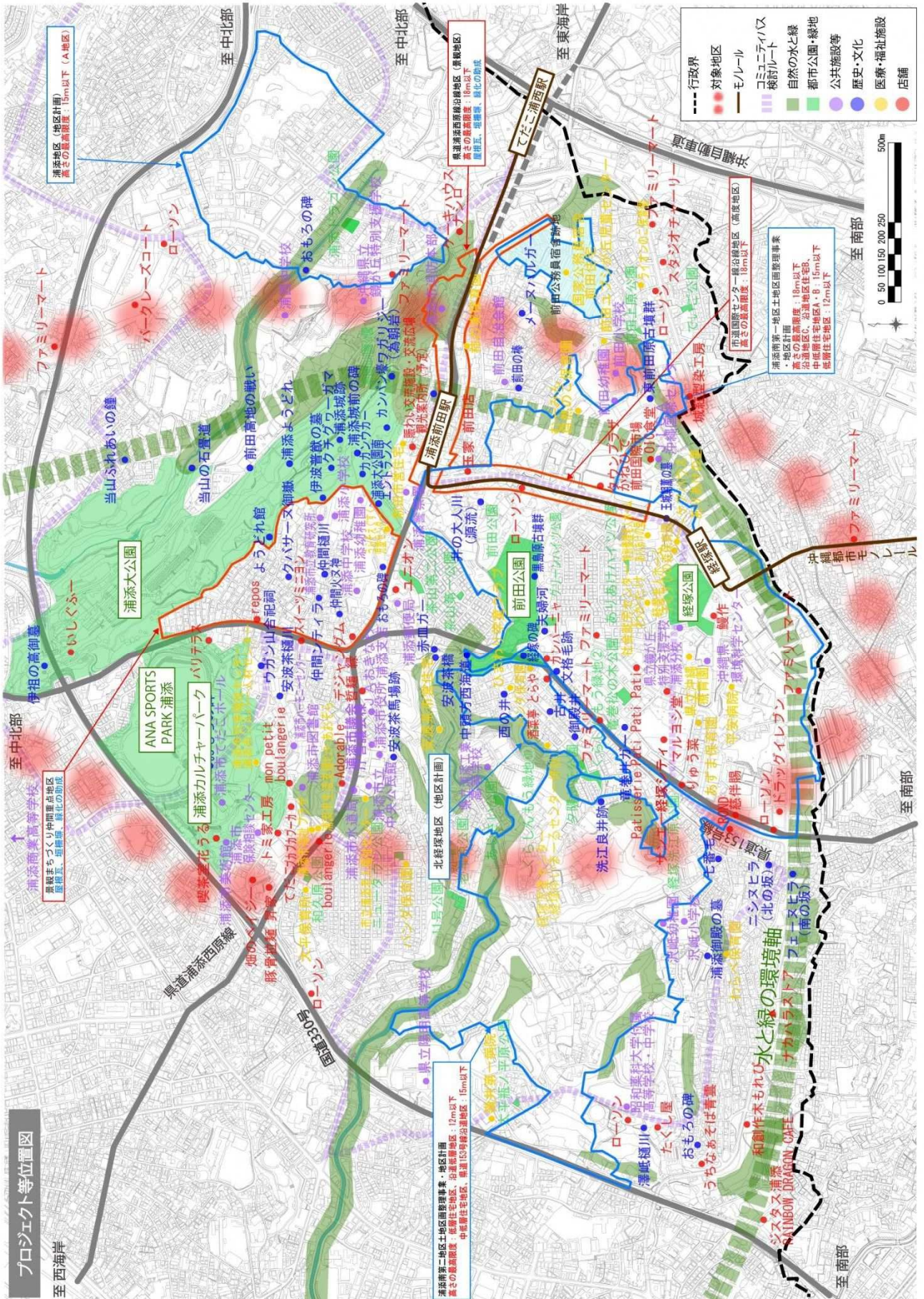
区分	名称	概要
賑わい 交流	観光交流拠点施設	浦添城跡、伊祖城跡、浦添大公園一帯の歴史・文化拠点、沖縄国際センターを中心とし、さまざまな市民活動が展開する交流空間として計画されている施設。 平成31年開業予定の沖縄都市モノレール浦添前田駅周辺を新たな“顔”として、近隣の歴史遺産である浦添グスク・浦添大公園との連携や駅前を中心とした交通結節点の形成及び景観づくりを進めることにより、にぎわいの創出及び交流促進を目指している。
	浦添前田駅周辺土地 画整理事業	モノレールの延伸による浦添前田駅とその周辺地区において、新たな玄関口として、交通結節点の整備、賑わい創出や交流促進の基盤整備と駅周辺の効率的な土地利用の実現を図る土地画整理事業。 【面積】約2.0ha
	浦添南第一土地画整 理事業・地区計画	道路網の未整備と地形の起伏の激しさから大部分が未利用地として放置されているため、公共施設の整備改善と宅地の一体的造成を先行的に行うことにより、今後の住宅地需要に対応した計画的な住宅市街地の形成を図る土地画整理事業。 平成4年度から事業着手、平成10年に仮換地指定を行い、本格的に工事の着手。 【施行面積】82.4ha
	浦添南第二土地画整 理事業・高度利用地区 計画	区内の最大標高差が70m以上ある起伏の激しい地形であるため、緑の骨格となる良好な居住環境を確保し、今後の住宅地需要に対応した計画的な住宅市街地の形成を図る土地画整理事業。高地利用地区を指定し、核となる商業・業務の立地を図ることとしている。 【施行面積】60.4ha
	てだこ浦西駅周辺土地 画整理事業	本地区は、隣接する沖縄都市モノレールてだこ浦西駅及び沖縄自動車道のインターチェンジ整備により総合交通結節点機能を活かした浦添市の東の玄関口として、また沖縄本島中北部地域の玄関口として地域活性化の拠点として位置づけられている土地画整理事業。 土地画整理事業の実施により、現在未整備の区域の土地の有効活用を図ると共に、地区の持つポテンシャルを上げ、モノレール駅を中心とした魅力あふれるまちづくりを目指す事を目的としている。
自然環境・景 観	景観まちづくり計画	景観形成や住環境改善の方策として建築協定締結、地区計画、都市景観賞の制定（S59）、彫刻のある街づくりなどの実践的な計画。
	景観地区	景観まちづくり重点地区は、「浦添市景観まちづく条例」第10条に位置づけられている地区。 浦添グスク周辺地区での展開。浦添グスク周辺地区での展開にあたっては、一様に重点地区としてルールを設けることが困難であるため、特性に応じて複数の「重点地区」を順次設定していく必要。その中でも優先度の高い地区は仲間地区。仲間重点地区の区域：県道38号線、県道153号線、浦添大公園区域に囲まれた仲間2丁目を中心とする範囲。 【面積】19ha
	仲間地区、当山地区	計画における重要かつ先導的なモデルとなる地区で、浦添市景観まちづくり条例第10条に基づき定められた地区。
	小湾川上流	浦添市前田より流れ出ている川。ホタル、水棲生物が観察できる。
産業振 興	郵便局	浦添郵便局（仲間）
	沖縄銀行	大平支店（安波茶）、経塚支店（経塚）、

区分	名称	概要
	琉球銀行	安波茶支店（安波茶）
	J A おきなわ	浦添支店（安波茶）、沢岬支店（沢岬）
	沖縄県環境科学	健康の保持増進に必要な食品、飲料水等並びに生活環境の保全及び管理に関し必要な検査、調査研究、啓発等を行い、もって地域社会の健全な発展に寄与する事業を行っている。
交通	コミュニティバス社会実験	交通不便地域の解消や高齢化社会への対応、モノレールと連携した公共交通の確保等、地域の実情に即したコミュニティバス導入について必要事項を検討し、移動の利便性向上を図ることを目的に浦添市コミュニティバス実証実験を実施。 【実証実験期間】平成 22 年 12 月～平成 23 年 2 月（3 か月） また、令和 2 年 11 月 1 日よりデマンド型コミュニティバス（うらちゃんミニ）の運行開始。
	路線バス	55 牧港線（宜野湾営業所～道の駅豊崎）、56 浦添線、99 天久新都心線、47 てだこ線、87 赤嶺てだこ線、191/91 城間線
	県道浦添西原線拡幅整備	浦添市字港川崎原地内から同市字城間大川地内までの延長約 1,550m の区間の線改築事業及びこれに伴う市道付替工事。
	国際センター線	字前田山川原～首里大名町三丁目の延長約 1,580m の市道（平成 29 年浦添市決定）。高度地区を指定。
	ゆいレール延伸	沖縄都市モノレールは、首里からてだこ浦西まで延伸し、2019 年 10 月 1 日より開業。
	県道 153 号線整備	道路斜面の崩壊や落石などのおそれのある箇所について、災害の発生を未然に防ぎ、道路利用者の安全を確保するために、法面の保護や落石防止対策などの整備を行う。
医療・健康	平安病院	経塚にある浦添市で唯一の精神科を有する病院。 【診療科目】精神科、心療内科、内科 【敷地面積】13,618 m ² 【付属施設】自立訓練（生活訓練）施設、自立訓練事業所「経塚苑」、就労移行支援施設、就労支援事業所「就労プラザ わく・わく」、相談支援事業所「ゆんたく」、サテライトクリニック「かもめクリニック」
	G U L F	牧港、前田にあるスポーツクラブ。
	てだこウォーク	琉球王朝発祥の地として大交易時代の扉を開き、琉球王国 500 年の輝かしい歴史を背景に、11 万市民のホスピタリティでウォーカーを迎える。浦添城跡などの歴史的な史跡を巡るだけでなく新しく開通した浦添西海岸道路を巡るなど様々なコースがある。
	浦添てだ桑茶	浦添市伊奈武瀬で生産販売している特産品。 桑の葉には食物繊維やカルシウム等が豊富に含まれている。国立沖縄高専では、シマグワにおける糖の吸収阻害効果の機能性研究などが進められている。
	経塚ゆいまーる	浦添市立経塚児童センター、障害児通園施設、経塚地区福祉・生涯学習推進施設。 児童の健全な遊びの場の提供などを目的として設置。
高齢者・子育て	JICA 国際センター	標高 104m に位置する JICA の教室を災害時に外国人支援の拠点として使用することが可能。
安全・安心	夏休み夜間巡回指導	浦添グリーンハイツ自治会が行っている夜間パトロール。
	経塚ライトアップ・イルミネーション	浦添市経塚自治会が 2005 年から毎年取り組んでいる。経塚ゆいまーるセンターを中心に、400m ほどにわたって繰り広げられる。
地域コ	グリーンハイツ自治会	ICA 沖縄国際センターに滞在する研修員が、浦添グリーンハ

区分	名称	概要
コミュニティ・地域活動	JICA地域交流	伊勢自治会主催による夏祭りに参加
	ふれあいサロン	市民が主体となり、気軽にご近所付き合いの輪を広げ、安心して暮らせるコミュニティづくりを推進するために身近な居場所づくり活動。
	年末町内美化清掃・餅つき交流会	協同作業を通して住民同士の親睦と青少年の健全育成、住みよいまちづくりに寄与する目的で行われている
	ジャガイモ掘り	昨年 10 月に植え付けたジャガイモを子どもたちと収穫
	バザー&ユブシが丘・歌声喫茶	地域交流を目的にガーデン野菜販売やバザーを開催
	うらそえ FOOD PARK	浦添の美味しいお店が集まり、出店方式でイベントを行う
	きっずあくあぱーく	ウォータースライダーやビッグプールなど多数のプールで遊べる
	夏祭り盆踊りのタベ	グリーンハイツの祭りとして毎年開催されている
	うらそえみずまつり	プールで遊べるほか、浦添市の水道についての勉強も行える
	まなびフェスタ浦添	「浦添市まちづくり生涯学習推進」関連事業として、講座や体験活動、市民活動報告、学習発表などを行う
	うらそえボランティアまつり	ボランティア団体による発表や体験、展示等が開催されている
	NewYear 祭り 2020	もちつきや茶道を体験しながら、外国の方との交流を楽しめるイベント
	男の料理教室	毎月、様々な料理教室を開催
	てだこまつり	毎年 7 月下旬の週末、浦添市の浦添運動公園をメイン会場にして 2 日間にわたって行われる夏祭り。
	浦添郵便局	浦添市仲間にある郵便局。
商業	サンエー経塚シティ	浦添市経塚にある株式会社サンエーが運営する GMS。
	タウンプラザかねひで前田国際市場	金秀商事株式会社が運営するスーパーマーケット。
	ユニオン	24 時間営業の沖縄県内に店舗を構えるスーパーマーケット。
	ローソン浦添経塚店	浦添市経塚にあるコンビニエンスストア。
	ファミリーマート グリーンハイツ経塚店	浦添市経塚にあるコンビニエンスストア。
	ファミリーマート 浦添前田店	浦添市前田にあるコンビニエンスストア。
	ローソン 前田小学校前店	浦添市前田にあるコンビニエンスストア。
国際交流	JICA 国際センター	「浦添にある国際センター」として親しまれている JICA 沖縄。全国に 15 か所ある JICA の国内拠点のひとつ。開発途上国の政府関係者などを対象にした各種分野の研修、沖縄から JICA ボランティアの募集や派遣に関する事業、県民に対して異文化理解講座や交流事業などを行っている。
	国際フェスティバル (JICA 国際センター)	国際協力・交流に関する理解をしていただくため、実際に国際交流を体験できる。
	研修員文化交流 (JICA 国際センター)	文化の紹介や体験など、学校や各団体が企画した交流会を通して、研修員の国についても理解を深めてもらうこのプログラム。
	OIC 食堂・ハラール食 (JICA 国際センター)	OIC (おいしー) 食堂では、世界各国から沖縄に技術研修を受けに来ている研修員のために各国の食習慣や宗教に配慮したメニューを提供。 OIC 食堂は、ムスリムの研修員も多く利用するので、ハラール

区分	名称	概要
		食材とハラル食専用の調理器具を使用し料理を提供。
	浦添工業高等学校	浦添市経塚にある県立の工業高等学校。
	浦添商業高等学校	浦添市伊祖三丁目にある県立商業高等学校。
教育	前田小学校	浦添市前田にある公立小学校。
	浦添小学校	浦添市仲間にある公立小学校。
	浦添中学校	浦添市仲間二丁目にある公立中学校。
	県立鏡が丘特別支援学校	浦添市当山三丁目にある公立特別支援学校。肢体不自由者を主な対象とした特別支援学校として県内で最初に開校した。
	琉球大学	西原町に本部を置く国立大学である。
	浦添市教育研究所	教育に関する調査研究や教職員の研修等、教育の改善・充実・発展を推進すべく、昭和63年4月1日に浦添小学校校舎内に設置された。

対象地域及び周辺のプロジェクト・コンテンツ位置図



【6】経塚公園・前田公園及び周辺の概要

● 計画諸元

項目	経塚公園	前田公園
種別	近隣公園	地区公園
面積	2.0ha	4.9ha
用地等 進捗状況	用地：取得済 公園：整備中	用地：未済 公園：計画中
用途	みんなのリビング、駅前広場、駐車場、遊具広場、ユーティリティスペース、保全林等	多目的広場、テニスコート、自然保全林、遊歩道等(今後、基本計画予定)
区域区分	市街化区域	市街化区域
用途地域	第2種低層住居専用地域(国際センター線沿線以外) 第2種住居地域(国際センター線沿線)	第1種中高層住居専用地域(前田線沿い) グリーンハイツ線沿い：第2種中高層住居地域 第1種中高層住居専用地域(グリーンハイツ線沿いより西側) 第2種低層住居専用地域(上記以外)
地区計画	低層住宅地区(国際センター線沿線以外) 沿道地区A(国際センター線沿線)	前田線沿い：沿道住宅地区B グリーンハイツ線沿い：沿道住宅地区C-2 上記以外：低層住宅地区
防火地域	指定なし	指定なし
高度地区	指定なし	指定なし
建ぺい率	50%、60%	60%、60%、50%
容積率	150%、200%	150%、200%、150%
日影制限	指定なし	指定なし

※都市公園内に設けられる建築物の建蔽率は2%(都市公園法)

ただし、下記施設は上記建蔽率を参酌(市都市公園条例・条例規則)

休養施設、運動施設、教養施設、災害応急対応施設、自然公園利用施設 +10%

文化財や景観重要構造物等 +20%

屋根付広場や壁を有しない運動場等 +10%

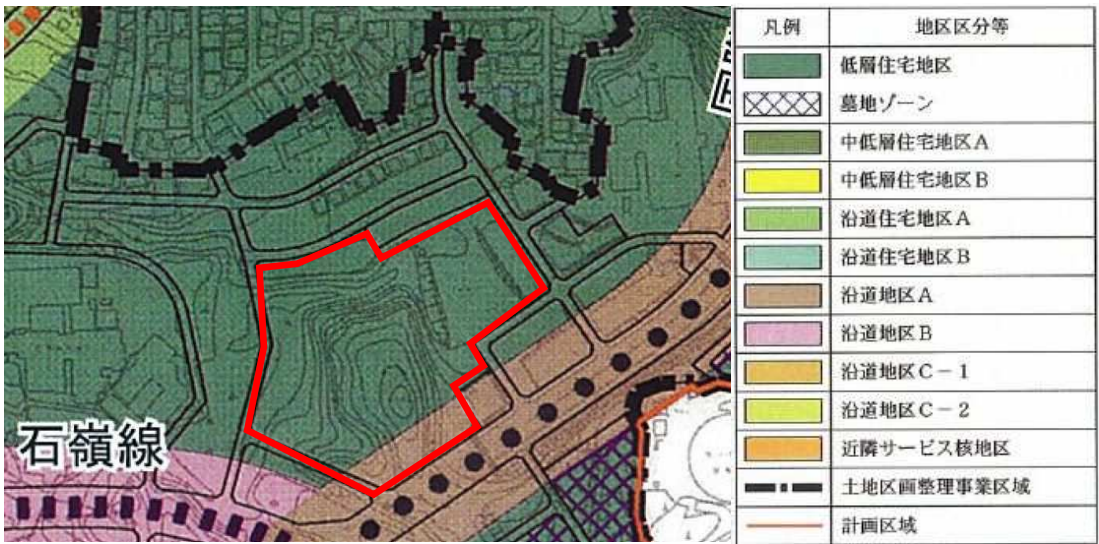
仮設公園施設等の臨時建築物 +2%

※便益施設は2%だが、Park-PFI制度を活用した場合は特例措置として+10%(市都市公園条例改正予定)

経塚公園周辺の都市計画図



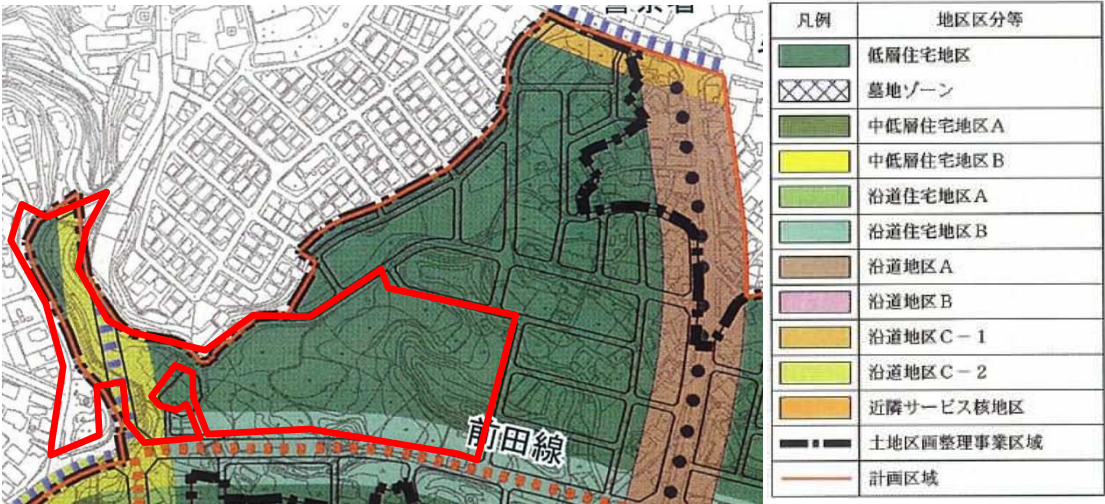
経塚公園周辺の地区計画図（地区の区分）



前田公園周辺の都市計画図



前田公園周辺の地区計画図（地区の区分）



- これまでの取り組みと今後の方針

経塚公園のとりくみ Contents of Past Efforts of URASOE KYOZUKA PARK



(上図は平成25年時点の案で、今後変わる場合があります)

平成25年 地元ワークショップの様子といただいたご意見

地元ワークショップの様子



いただいたご意見

- (1) 園路・広場(ゾーン及び空間整備)について
 - 1) イベント広場は大きく、芝生広場にしたい。
 - 2) 広い面積で、四角形の取れる多目的広場にしたい。
 - 3) 近隣の自治会など、合同で利用できる規模の広場にしたい。
 - 4) 災害時の避難場所として利用できるように整備してほしい。
 - 5) イベント広場ではなく、多目的遊具広場があった方がよい。
 - 6) 駅前には遊具広場を計画してほしい。
 - 7) 多目的広場と遊具広場は区切りをつけずに連続したほうがよい。
 - 8) 丘(保存緑地)を活用して遊びを増やす。森(保存緑地)を少し狭くする。
 - 9) 地形を生かす形で遊べる子ども広場、遊具はなし。
 - 10) モノレール駅に隣接する立地条件を大前提として、景観的にも特色のある公園づくりをめざす。
 - 11) 多目的広場とランドゴルフ場、テニスコートを設置。
 - 12) 高齢化20%以上の地域のため8ホール程度のランドゴルフ場の設置。
- (2) 具体的施設(面的整備)について
 - 1) 池を作りたい。
 - 2) 子供が入れる(遊べる)噴水広場にしたい。
 - 3) 公園を一周できるウォーキングコースを整備してほしい。
 - 4) ウォーキングコースを作りたい。
 - 5) サイクリングコース。
 - 6) ドッグラン。
 - 7) 農業コース。
 - 8) ウォーキングコース(一周)を作ってください。
 - 9) 農業コースを完成。
 - 10) 園路の一面整備。
 - 11) 森の中にアスレチックを設置する。
- (3) 修景施設(緑地、樹木等植栽)について
 - 1) 丘(保存緑地)はない方がいい。
 - 2) 桜並木(桜並木)がほしい。
 - 3) 常緑(公園)樹木で。
 - 4) 保存する樹木を選別する。基本のみ種類、視通しをよくする。エリア分けで園内の樹木を多数観察できるようにする。
 - 5) 沖瀬の樹木をそろえる。
 - 6) 針葉樹は花の咲く木で統一。
 - 7) フクダの森、ホウオウボクの森を創り出す。
 - 8) 既存の中央の森の部分は、点状の起伏のある地形なので、可能な限り自然を残すよう配慮する。
 - 9) 森(ムイ)の周辺に桜を植えて、まっすぐにできるようにする。
 - 10) 既存の森(ムイ)の生き方について
 - 小森の環境をいじり、小森の生き方を継承。
 - 自然共生を大事にし、名札をつけて、専科教育や環境学習に役立てる。
 - 11) フクダは美しい景観を作るのに重要で、ホウオウボクは鑑賞樹木として花を代表する樹木である。
 - 12) 樹木の完全安全。
 - 13) 近隣の森の公園を、立地条件を主としてほしい。
 - 14) 園路はクワディーサーの樹木を植栽する。
- (4) 休養施設について
 - 1) ベンチを多めに配置してほしい。
 - 2) 休憩舎を多く配置してほしい。
 - 3) 東屋やベンチはたくさんあった方がよい(田舎風を食べたりする)。
 - 4) 木の下(まわり)、トラバースの石いす。
- (5) 便益施設について
 - 1) 駐車場規模を大きくし、トイレも2か所ほしい。
 - 2) トイレは男女別。
 - 3) トイレは2か所設置。
- (6) 運動施設について
 - 1) スポーツ施設がほしい。
 - 2) 小さな子供が遊べるだけでなく、小学生、中学生ができるバスケット、テニス場(でも、学生が遊中に来ないか心配)。
- (7) 遊戯施設について
 - 1) 小・中・高が遊べる山など遊べる場所(広場)がほしい。
 - 2) 丘(保存緑地)の形状を利用した遊び、丘から広場へ続くローラー滑り台、丘の頂上へ木製遊具。
 - 3) 遊具場から山の頂上へつり橋をつけて遊びを連続し体験させる。
- (8) 管理施設について
 - 1) 監視カメラ(保安等)を多く。
 - 2) 全体を見渡せるように監視をつける。
 - 3) ハブ対策。
- (9) 駐車場について
 - 1) 駐車場規模を大きくし、トイレも2か所ほしい。
 - 2) 駐車場は必要最低限。
 - 3) モノレールと連携して有料駐車場(50台程度)をつくる。
- (10) その他
 - 1) 持ち合わせがし、やすいオブジェがほしい。
 - 2) 駅前に商店。
 - 3) 遊歩道は平坦がほしい。
 - 4) 丘への遊歩道は手すりを設置する。
 - 5) 園路は全て平坦とする。階段は避ける。
 - 6) 園路の全天候型を導入する。
 - 7) モノレール駅名について(緑地公園)とした方がよい。公園名を冠した特色のある公園として、他の駅のない素晴らしい景観形成を創り出すとよい。
 - 8) 園路駅付近の緑地。
 - 9) グリーンハイツから西側で公園を遊んでモノレールへ行くようにする。
 - 10) 休養施設を遊る、道に突き出した例のような物を作り、木を植え、グリーンハイツ内の車を規制してほしい。

【7】コロナ禍における社会情勢の変化

【観光動向の変化】

- 日本国内、沖縄県ともに国内旅行者数、外国人旅行者数が激減

⇒令和2年6月、日本を訪れた外国人旅行者数は、前年同月と比べ99.9%減少(2,600人)



(出典: 2020/7/15 トラベルボイス)

- 旅行に対する価値観の変化

2020/5/25 訪日ラボ掲載の記事を基に以下、緊急事態宣言解除後の旅行意向をまとめる。

調査団体: トラベルズー・ジャパン株式会社

期間: 2020年5月12~17日

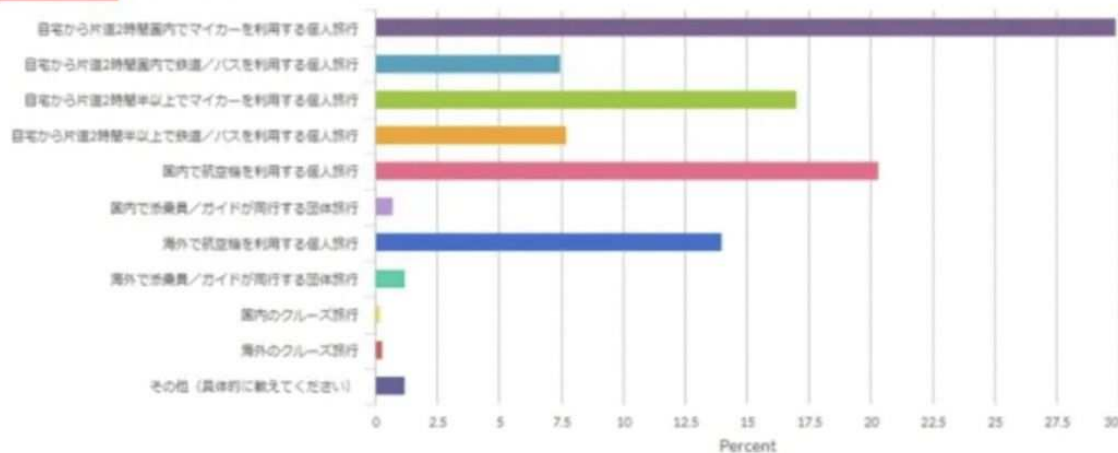
対象: 国内トラベルズーメンバー (4,306人)

内容: 緊急事態宣言解除後の旅行意向

方法: インターネット調査

Q3

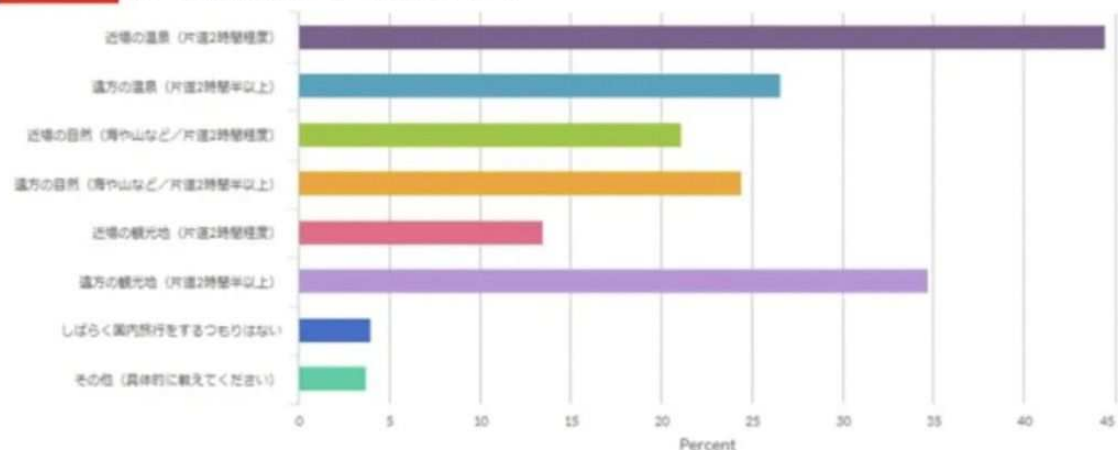
緊急事態宣言解除後、最初に行きたい旅行について、最も当てはまるものを選んでください。



TRAVELZOO®

Q4

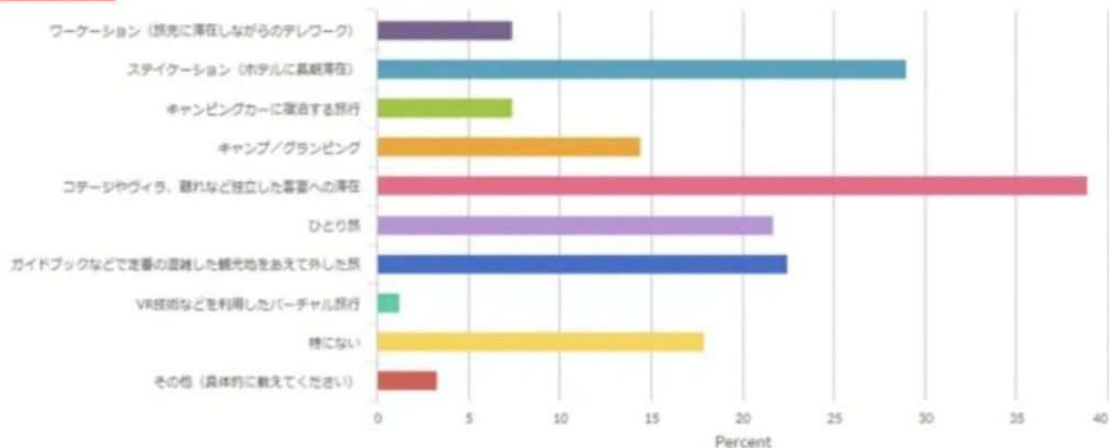
緊急事態宣言解除後、国内で1年以内に訪れたい旅先を2つまで選択してください。



TRAVELZOO®

Q6

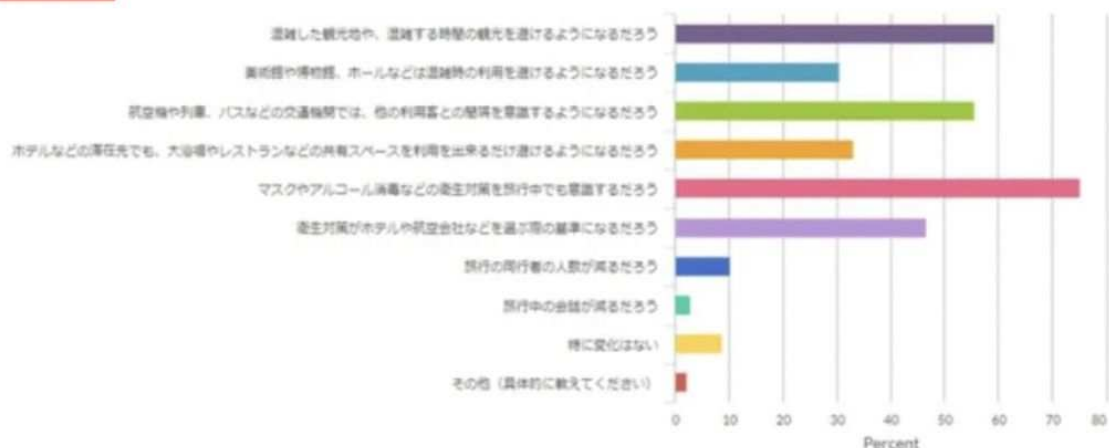
緊急事態宣言解除後、試してみたい旅のスタイルをすべて選択してください。



TRAVELZOO®

Q7

新型コロナウイルスの影響による、旅に対する価値観の変化で当てはまるものをすべて選択してください。



TRAVELZOO®

（出典：2020/5/25 訪日ラボ）

⇒観光客需要として、「マイカー旅行」「近場の温泉」「独立した客室」が人気（マイクロツーリズム）

⇒3 密の回避等（ソーシャルディスタンス）、衛生意識の向上

「緊急事態宣言解除後、国内で1年以内に訪れたい旅先」は、「近場の温泉（片道2時間程度）」が44.5%で首位となっている。これは、新型コロナにより長距離の移動（県間を跨いだ移動等）の自粛・制限がかけられていたため、近場の観光施設を目的地とする割合が高くなったといえる。

【生活様式の変化】

● テイクアウト、テラス営業の普及

（事例 1）沖縄県 まいにち。おきなわ

新型コロナウイルスの影響で小売業が e コマース（電子商取引）の推進、飲食店がテイクアウトやデリバリーに取り組む中、沖縄県はそれらの情報をまとめたプラットフォームとなるサイト「まいにちに。おきなわ」をオープンし、登録事業者を募集している。

The screenshot displays the homepage of the 'まいにちに。おきなわ' website. On the left is a vertical navigation menu with icons for 'Take out & Delivery', 'Local products & Special products purchase', 'Travel', and 'Featured articles'. The main content area features a header with the site's logo and a 'Take out & Delivery' section. This section includes the text 'OKINAWA TAKEOUT DELIVERY M A P' and a 'Find a store' button. Below this is a large image of a bowl of food with the text '沖縄の 陽気と笑顔で 温まろう' (Warm up with Okinawa's sunny weather and smiles). To the right of the food image is a quote: 'いのちは"食べる"でできている。あなたの人生も豊かになる。' (Life is made of 'eating'. Your life will also become richer.) and another line: '海も空も食卓も、色鮮やかな沖縄が広がる。' (The sea, sky, and dining table, the colorful Okinawa spreads). The footer contains social media links, a copyright notice for 2020 Okinawa Prefectural Government, and a disclaimer.

（出典：まいにちに。おきなわ）

(事例 2) 那覇市 #なはエール飯 (那覇市観光協会)

新型コロナウイルスの拡大により外出自粛の中、飲食店はお客様を呼びたくても呼べない、利用者側においてもお店に行きたくても行けないという状況になっている。

そこで、那覇市観光協会では持ち帰りや配達可能な店舗と利用者をつなぐ「#なはエール飯」プロジェクトを開始した。

那覇市観光協会 那覇市内飲食店応援プロジェクト！

#なはエール飯

～ 広げよう支援の輪 ～



地域のみなさま

新型コロナウイルス感染拡大により
那覇市内の事業所は大きな影響を
受けています。お店の危機を、市民
自ら応援して渡ることができたら...
そんな気持ちを込めたプロジェクト！
“那覇のおいしい飯”を持ち帰ろう！
そして、拡散し支援の輪を広げよう！





飲食店さま

新型コロナウイルスの影響で
売上減等により、大打撃を受けている
市内飲食店の皆さま、食べに行きたく
ても行けない状況の中、応援する人が
います。このエールに応え、あなたが
作る“美味しい飯”を発信しよう。



「#なはエール飯」をつけてSNSに投稿しよう！！



飲食店のみなさまのエントリー方法



飲食店のみなさま

①



②



③



④



テイクアウトや、
デリバリーの商品を作る
①の商品を撮影する
エントリーシートを
提出する
「#なはエール飯」を
つけてSNSに投稿する

地域のみなさま



地域のみなさま

①



②



③



協会HP掲載店舗でテイクア
ウトやデリバリーをする。
①で購入した商品を投稿する
「#なはエール飯」を
つけてSNSに投稿する

【お問い合わせ】 (一社) 那覇市観光協会 TEL: 862-1442 FAX: 880-6893

(出典：NAHANAVI)

【制度の緩和】

●歩行者利便増進道路制度による道路占有許可基準の緩和

⇒3 密回避のため、民間でもオープンテラス利用など道路空間を無料で利用することが可能になった。

国土交通省

テイクアウトやテラス営業などのための 道路占有許可基準の緩和措置を再延長します

国土交通省では、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける飲食店等の皆様に支援するための緊急措置としてテイクアウトやテラス営業などのための道路占有許可基準の緩和措置を行いました。その緩和措置の占有期間について、令和3年3月31日までとしていたところですが、このたびは**令和3年9月30日まで再延長**することとしました。

また、地方公共団体に対しても同様に取り組んでいただけるよう要請しています。



(国道17号：文京区千石)

緩和措置のポイント (赤字部分が変更点)

内容	① 新型コロナウイルス感染症対策のための暫定的な営業であること ② 「3密」の回避や「新しい生活様式」の定着に対応すること ③ テイクアウト、テラス営業等のための 仮設施設の設置 であること ④ 施設付近の清掃等 にご協力いただけること
主体	地方公共団体又は関係団体※ ¹ による一括占有※ ² ※ ¹ 地元関係者の協議会、地方公共団体が支援する民間団体など ※ ² 個別店舗ごとの申請はできません。 お住まいの地方公共団体等にご相談ください。
場所	道路の構造又は交通に著しい支障を及ぼさない場所 ※ 歩道上においては、交通量が多い場所は 3.5m以上 、その他の場所は 2m以上 の歩行空間の確保が必要です。 ※ 沿道店舗前の道路にも設置可能です。
占用料	免除（施設付近の清掃等にご協力いただけている場合）
占有期間	令和3年9月30日まで （令和3年3月31日までを延長）

【お問合せ】

国土交通省 道路局 路政課 道路利用調整室 占有許可担当
 〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3
 TEL：03-5253-8481（直通） FAX：03-5253-1616

（出典：国土交通省 新型コロナウイルス感染症の影響に対応するための沿道飲食店等の路上利用に伴う道路占有の取扱いについて）

コロナ禍における社会情勢の変化まとめ

【観光動向の変化】

- ・日本国内、沖縄県ともに国内旅行者数、外国人旅行者数が激減
 - ⇒令和2年、沖縄県の入域観光客数は、前年と比べ72.7%減少
(9,469,200人→2,583,600人)
 - ※令和元年5月 834,900人、令和2年 44,000人、令和3年 169,950人
 - ⇒令和2年 沖縄県を訪れた外国人旅行者数は、4,5,6月ともに0人
 - ※令和3年4月 0人
 - ⇒航空機の需要減退に伴い国際線、国内線ともに減便
- ・日本国内や沖縄県内においても、緊急事態宣言をはじめ商業施設や飲食業の営業時間の短縮や移動自粛等の措置
- ・国内観光需要の回復に向けた動き
 - ⇒令和2年度 国内観光需要の回復を目指すGO to キャンペーン等の施策の実施
 - ⇒外国人旅行者においては、未だ回復の目処が立っていない
- ・旅行に対する価値観の変化
 - ⇒観光客需要として、「マイカー旅行」「近場の温泉」「独立した客室」が人気
(マイクロツーリズム)
 - ⇒3密の回避等(ソーシャルディスタンス)、衛生意識の向上

【生活様式の変化】

- ・ライフスタイルや価値観の変化
 - ⇒テレワークの導入、オンライン会議等の推進
 - ⇒コワーキングスペースの普及
- ・自宅近くの公園の価値の再評価(新しい生活様式を心掛けて公園を使おう)
 - ⇒体調が悪い時は利用を控える、場所・場所を選びゆずりあう等の4項目
- ・3密を回避した食の変化
 - ⇒テイクアウト、テラス営業の普及

【制度の緩和】

- ・道路占有許可基準の緩和(歩行者利便増進道路制度)
 - ⇒3密回避のため、民間でもオープンテラス利用など道路空間を無料で利用することが可能になった(令和3年9月30日まで)

(2) 地域分析

<p>【上位計画まとめ】 【市民の問題意識】 ※まちづくり生涯学習推進基本計画・地域福祉計画 ・まちづくりへの参加意欲やコミュニティ形成、地域活動の場の必要性に対する意識が高い ⇒集会所や図書館などの必要性、近隣の人たちやコミュニティとのかわりについて重要度が高い一方、満足度が低い ⇒まちづくりや地域活動への意欲として「参加したい」・「機会や条件、内容によって参加したい」と答えた人が7～8割 【対象地区の位置づけ】 ※都市計画マスタープラン ・将来市街地目標「歴史が薫り、森と水辺に憩うまち」 ・浦添市の行政・文化の中心として、また国際交流の核を形成する地域 ・沖縄都市モノレール延長により交通機能の拡充が期待され、新たな機能立地を展開する地域 ・浦添市と那覇市で「日本遺産」に認定され、歴史的な資源を活かす地域 【公園及び周辺整備に関する事項】 ※浦添市総合計画、てだこ・結プラン、ティーダヌファみどり計画、浦添市観光振興計画 ・住民参加（ワークショップ等での参画、パートナーシップ構築） ・ユニバーサルデザイン（バリアフリー等） ・花と緑のまちづくりの推進 ・ティーダヌファの顔となるみどりの整備推進 ⇒浦添大公園等の整備推進、浦添城跡の緑化推進等 ・地域に親しまれる公園づくり（公園、緑地の適正配置等） ・みどりの管理運営・利活用方針 ⇒みどりのまちづくり支援センターの設置 ・浦添市営公園におけるパークマネジメント ⇒近隣公園等は市民と事業者の参画による管理運営（Park-PFI）等を検討 ・浦添大公園や浦添城跡周辺などの既存施設の効果的かつ柔軟な利活用の推進 【モノレール新駅周辺整備に関する事項】 ※都市計画マスタープラン・産業振興ビジョン、浦添市観光振興計画 ・賑わい創出や観光客・地域住民との交流機能の充実（交流広場や観光案内板整備） ・スポーツ医療関連の産業振興・研究開発拠点化 ・駅周辺の宿泊施設や観光・交流拠点の充実</p>	<p>【地区概況まとめ】 【人口】 ※統計うらそえ・住民基本台帳 ・対象地区の人口増加率は市内でも著しく高い ⇒平成20～31年度の間で約2,400人以上増加しており、市全体の増加数約5,900人の約4割を占める ・市全体の傾向とは異なり、対象地区内の経塚駅周辺（字前田、字経塚）では年少人口は横ばいで、高齢化率の増加も緩やか 【交通】 ※浦添市地域公共交通会議資料・交通基本計画、ゆいレール駅別乗客数 ・モノレール延伸及び支線となる公共交通により、交通不便地域の解消が期待される ⇒平成31年（延伸後）では、1日平均乗客数として、経塚駅640人、浦添前田駅548人、てだこ浦西駅1,308人となっている ⇒浦添市地域公共交通会議にて浦添前田駅や経塚駅を通る経路を含む支線公共交通運行ルート（案）が検討されている ・今後更なる歩行利用が想定される一方、歩道ネットワークが脆弱 【土地利用・導入施設】 ※ヒアリング結果 ・地価は市全体と比べても高い増加率で高騰 ・地元からは自然や公園の有効活用と利便性向上を図る施設（駐車場、歩道橋、保育所・カフェ等）の整備が求められている ・新しい公園ではBBQや農園の市民利用、また、健康まちづくりの要望も挙がっている</p>	<p>【地域資源・プロジェクトまとめ】 【主要な地域資源】 ・浦添城跡 ・浦添大公園 ・JICA国際センター ⇒浦添城跡等の歴史資源をはじめ、浦添大公園やJICA国際センター等の公共施設、文化施設がある 【主要なプロジェクト】 ・国指定史跡浦添城跡復元整備 ・浦添前田駅周辺土地区画整理事業 ・コミュニティバス社会実験 ⇒歴史・文化資源の復元や駅周辺整備など、市内で拠点整備が推進 ⇒交通不便地域の解消や高齢化社会への対応、モノレールと連携した公共交通の確保等の検討を行い、コミュニティバス実証実験を実施するなど、次世代に向けた実証実験も行われている 【主要なイベント】 ・てだこウォーク ・うらそえボランティアまつり ・夏祭り盆踊りのタベ ・夏休み夜間巡回指導 ⇒浦添市内全体を巻き込んだ大規模なイベントから、自治会が主催し、より地域に密着したイベントも行われている</p>	<p>【コロナ禍における社会情勢の変化】 【観光動向の変化】 ・日本国内、沖縄県ともに国内旅行者数、外国人旅行者数が激減 ⇒令和2年6月、日本を訪れた外国人旅行者数は、前年同月と比べ99.9%減少(2,600人) ⇒令和2年6月、沖縄県の入域観光客数は、前年同月と比べ83.4%減少(144,100人) ⇒令和2年、沖縄県を訪れた外国人旅行者数は、4,5,6月ともに0人 ⇒航空機の需要減退に伴い国際線、国内線ともに減便 ・日本国内においても、緊急事態宣言をはじめ移動自粛の動きが広がっている ・国内観光需要の回復に向けた動き ⇒国内観光需要の回復を目指すGO toキャンペーン等の施策の実施 ⇒外国人旅行者においては、未だ回復の目処が立っていない ・旅行に対する価値観の変化 ⇒観光客需要として、「マイカー旅行」「近場の温泉」「独立した客室」が人気（マイクロツーリズム） ⇒3密の回避等（ソーシャルディスタンス）、衛生意識の向上 【生活様式の変化】 ・ライフスタイルや価値観の変化 ⇒テレワークの導入 ⇒コワーキングスペースの普及 ・自宅近くの公園の価値の再評価 ⇒テイクアウト、テラス営業の普及 【制度の緩和】 ・道路占有許可基準の緩和 ⇒3密回避のため、民間でもオープンテラス利用など道路空間を無料で利用することが可能になった</p>
--	--	---	--

■ウラオソイ文化交流ゾーンの歴史、緑を活かし地域住民が集う拠点の整備を行い、まちづくりに波及させることが重要

- ・観光・交流拠点の充実
⇒浦添大公園や浦添城跡周辺などの既存施設の効果的かつ柔軟な利活用の推進
⇒モノレール駅等の観光目線での機能充実
- ・地域活動の場（集会場、図書館等）の拠点整備
⇒コミュニティ形成を図る場へのニーズの対応
- ・自然や公園の有効活用と利便性向上を図る施設（駐車場、歩道橋、保育所・カフェ等）
⇒モノレール駅周辺の整備、延伸に伴う利用者数の増加に対応
- ・地域資源を活かしたプロジェクト運営、イベントの開催
⇒拠点整備と併せて、イベントの活用によって、地元住民のみならず地域の外からも人を呼び込み、交流や賑わいを生み出す

- ・モノレール延伸に伴う整備
⇒交通機能の拡充に伴い、新たな機能立地を展開
⇒周辺の公園、利便性向上を図る施設の整備
⇒賑わい創出や観光客・地域住民との交流機能の充実（交流広場や観光案内板の整備）
⇒モノレール駅周辺の宿泊施設や観光・交流拠点の充実
⇒周辺の交通ネットワーク整備（その他公共交通との連携）
- ・ティーダヌファの顔となるみどりの整備充実、地域に親しまれる公園づくり
⇒地域特性を活かした公園、歴史・文化資源の整備、緑化推進
⇒前田公園、経塚公園においては、交流の場として、パークマネジメントの視点で整備を推進



■観光客、地域住民ともに、with コロナ・after コロナにおける社会の変化への対応が重要

- ・国内旅行者、地域住民への取り組み
⇒日本国内においては、Go toキャンペーン等の施策により活性化を図ってきたが、with コロナにおける対応が引き続き求められる
⇒テイクアウトやテラス営業の普及に合わせて、道路占有許可基準の緩和等が行われている
⇒with コロナ・after コロナの新たな生活様式への対応が必要
- ・外国人旅行者への取り組み
⇒外国人旅行者は激減しており、回復の目処も立っていない
⇒新たな観光（VR観光等）への対応の検討